

特集：対話からはじめよう



April 2019
大修館書店 110

〈インタビュー〉阿川佐和子

コミュニケーションにマニュアルはない

大切なのは相手に興味をもつこと 2

〈学校訪問レポート〉

弁論大会に向けたスピーチの練習 授業者：関 康平 8

〈「話す・聞く」授業活性化のアイデア〉

「記者会見」を行おう 仲野敏樹 14
——多様な立場から行う「話すこと・聞くこと」の活動

評価の際に心がけている五つのポイント 下西美穂 17

「対話の中で学ぶ能力」の育成 北久保友希 20

古典でも「話す・聞く」 倉部 康 24

より良い話し手・聞き手を育てるために 塗田佳枝 28

中学と高校をつなぐ 石鍋雄大 31

大修館書店の教科書教材で振り返る「平成」 34

新課程 履修パターン シミュレーション 監修：永田里美 44

2020年度用 大修館書店 国語教科書のご案内 中面カラーページ

「ジショサポ」「まなび動画Navi」のご案内 49

● 連載 【最終回】
いま、漱石を読む⑦ 時代の中的個人主義 石原千秋 36
——「私の個人主義」

コトバのひきだし② いさめられても、叱らないで 関根健一 40

国語教師のための
古典文法指導講座② 「古典文法」と「文語文法」はどう違う? 大倉 浩 42

新人教師のための
漢文指導入門講座 中級編⑫ 重要漢字の総復習 塚田勝郎 52

● コーナー
投稿 技術者を目指す学生と「鉄を削る」を読む 清島絵利子 56

えつらん室 バラレル・ライティング入門／介護のことばづかい 60
唐詩和訓／大連・旅順歴史ガイドマップ

国語のNews & Topics 62

〈インタビュー〉阿川佐和子さん



●あがわ さわこ
エッセイスト、小説家。
2012年『聞く力』が年間
ベストセラーとなる。『週刊
文春』の対談記事「阿川佐
和子のこの人に会いたい」
は連載1000回を超える。

コミュニケーションにマニュアルはない 大切なのは相手に興味をもつこと

「コミュニケーション能力が重視される今日。高校
国語でも「話す・聞く」力の育成が求められていま
す。コミュニケーションや対話「聞く」力につい
て、阿川佐和子さんにお話をうかがいました。

「聞き書き甲子園」と高校生たち

——「話すこと・聞くこと」について、高校生にお
話をされることもあるそうですね。
もう一五年ぐらい前から、林野庁などが
主催している「聞き書き甲子園」に、聞き
書きのプロ、塩野米松さんと私が講師とし
て呼ばれているんです。

山や海で働いている人たちにインタビュー
する高校生に向けて、「行ってらっしゃい」
と送り出すときと、「お帰りなさい」と迎え
るときと、年に二回イベントを開く。八月
に送り出すときには塩野さんと二人で、子
どもたちにエールを送るような講演をして
います。高校生は夏休みを使って山や海に
行き、帰ってきて、レポートを書く。三月
には成果発表会があって、五人ぐらいのレ
ポートが優秀作品として選ばれる。名人と
そのレポートを書いた高校生を舞台上上げ

て、私と塩野さんが感想を聞くんです。

「聞き書き甲子園」は、高校生百人を全国
から募って、その地域の名人といわれる人
たちとタイアップさせる。この子は宮崎だ
から、この辺りの焼畑のおばあちゃんを訪
ねたらどうかとか、仙台だったら、ここに
いる椎茸作りの人と会わせようとか。

後継者なんてもう諦めているような人た
ちのところに、突然、「すべてを語ってくだ
さい」と高校生が訪ねてくる。最初は、高
校生もどこからどう質問していいかわから
ない。だから、ずっと黙っていると、名人
のほう心配になって、一人でしゃべりは
じめる。頼りないと思うと、質問される側
もなんとかしなきゃかわいそうだと思っ
たんですね。そんなふうには、訥々と高校生相手に
話した結果、発表会で「今まで家族にも
自分の仕事なんて語ることもなくてなかつ
た」と振り返る名人がたくさんいらっしゃ
いました。そういう意味でもやりがいがあ
ると思います。

そうやって書き上げた作文なんだけど、
優秀作品に選ばれた子に「将来は？」なん
て聞くと、「いや、サッカー選手になりたい
です」と。「だからって人生変わったわけ
はありません」みたいな感じが、素直でい
いんですけどね。
ほかに、「通うのがつらかったです」と
か、「帰ろうと思ったら風にあたって泊めても
らいました」とか、いろんな出会いがある。
志の高い子ばかりが集まっているわけでも
ない。でも中には、受験があるからそんな
ことにかまけている場合じゃないだろうっ
て親に反対されても、どうしてもやってみ
たかったという女の子もいましたね。

コミュニケーション能力は 本当に必要か？

——高校生がコミュニケーションを学ぶことについ
て、どうお考えですか？

近年、社会に出るにあたってコミュニ
ケーション能力が必要だとか、就職の場
でコミュニケーション能力がものすごく求め
られていると言われるようになってい
たいですね。私が続けてきた仕事の中に
くつか、小さなコツやノウハウというも
は、ないわけではない。でも、『聞く力』な

て本を出しておいて言うのもなんです
けど——これだけやれば大丈夫、すべてマ
ニュアル化できるというものはないと思っ
ています。

むしろ最近思うのは、コミュニケーショ
ン能力ってそんなに必要か？ ということ
です。今は、コミュニケーション能力がな
いと優秀じゃないとか、社会で活躍できな
いとか、人に認められないという強迫観念
にかられている時代なんじゃないかと。私
はインタビューでさまざまな分野の人たち
に話を聞けれど、世の中でいろんなかた
ちで大成している人でも、子ども時代に必
ずしもコミュニケーション能力が優れてい
たわけではない。むしろ、真逆だったとい
う人のほうが多い気がする。人どう接す
ればいいのか、自分の好きなのをどう表現
していいか、人にどう伝えればいいかとい
うことがわからない。もう悶々と、悶々と
して、大きくなったら小説家で、歌手で、
役者でボカーンと爆発するという人は、案
外多いんですよ。

若いころから周りとの関係を作るのに長
けている人だけが、自分のやりたいことや、



待ってみよう」という場所も時間もなくなっているでしょう。

昔は、家族がもっと大勢いましたから。家の中で、お母さんとうまくいかなかったら、おばあちゃんがいるとか、おじいちゃんがいるとか、近所の人がいるとか、逃げ道があった。今はそういう逃げ道が少なくなっているし、先生も先生で、子どもだけを見つめていればいいという時代じゃなくなっていますものね。

今は理想の子どもに育てるんだっていうエネルギーが集中しているから、親御さんも子どもから目が離せないようですね。小児科のお医者さんもおっしゃってました。

いたい場所を見つけることができるかというところ、そうとも言えないんじゃないかと思う。ただ、教育というのは、網羅的にある程度水準に持っていかなきゃいけないから、ある程度は教える必要があるかもしれない。でも、水準に達しない子どもがいたとしても、だめだと決めつけたり、子ども自身が自分だめなんだと思ひ込んだりする必要はまったくないということ、ちゃんとやっておかないと。それぞれに、ほかに何か能力があるかもしれないし。

たとえば、小説家の角田光代さんに初めてインタビューしたとき、「九九は苦手なんです」っておっしゃるのね。「じゃあ、8×9は？」とたずねたら、「そういう大きい数字はだめなんです」と。「じゃあ、どこまで？」と聞くと、「5×5まではできます」。あれだけ素晴らしい日本語を書く人が、「8×9」ができないという落差に驚いて、笑っちゃって、そのインタビューは終わったんです。

この間、もう一度角田さんにインタビューする機会があって、あらためて伺ったら、幼稚園のときから、コミュニケーション能力

力がなかったんですって。友だちに自分の気持ちやどう表していいか、先生にどう言うかっていいかがわからなかった。ケガしても「ケガをした」ということを先生に伝えられなくて、うちへ帰って、「なぜ先生に言わなかったのか」と聞かれても、それにも答えられないという、自分でもどうしようもないジレンマの中で苦しんでいた。

そしたら、小学校に入ったとき物語に出会ったんだそうです。物語の世界に魅了されて、ワクワクしちゃった。言葉と言葉をつなげると、物語になるということを知って、小学校低学年で「私は小説家になる」と決める。そんな職業があると気づくこと自体がすごいけど、物語を作る人間になると決めるんです。果敢な少女だと思えますね。そのとき、小説を書くために必要な学問以外はいらないと思ったんだそうです。算数の授業も理科の授業も出なくていいと思っただけで、だから九九ができないんだって。

そういうアンバランスを背負いながら、物語に出会ったときに角田さんは解放されたんです。今は楽しい方だし、おしゃべりもできるし、いろんな人たちと接して

お母さんと一緒に来た子どもに「今日はどうしたの？」と聞くと、「おなか痛いです」というんです」とお母さんが答える。「痛い痛くなったの？」という、「きのうの夜からなんです」「どういうふうに痛い？」「ずっとシクシクするっていつてるんです」と。「いや、この子に聞いているんで、お母さん、黙っててください」という現象が起きます。お母さんは心配でならないし、正しい方向に導くのは自分だと思っている。それも大事かもしれないけど、ちょっと放置してみることが誰もできなくなっているなと思っただけ。

自分独自の世界でどう判断するかということ、何回も経験しているうちに学んでいくんだと思うけど、どうも今、大学を卒業するまで常に助け舟がいるらしい。だから会社に入ると、上司にちよつと怒られただけで泣いちゃったり、辞めちゃったりする社員が多い。社会環境もあると思うけど、やっぱりやわらなっている気がしますよね。自分がだめでもともと、失敗して当然、みんなに笑われてオツケーと気楽に考えればいいのに、用心深すぎる気がします。

いらつしやると思います。だけど、何をしたいかわかるまでに、時間のかからない子もいれば、時間のかかる子もいる。何にワクワクするかも人によって違うことを知って、衝撃を受けちゃったんです。

「待つ」ことができない現代

少し前までは、会社に入っても、学校に入っても、しばらく様子を見てもらえる時間があったと思うんですよ。ところが今、社会がものすごくスピードアップしているから置いていかれる不安があって、遅れると取り返しがつかないという精神状態になる。昔のほうがよかったとか、楽だったとはいわないけれど、少なくとも違うのは、スピードのような気がするんですよ。

新幹線もそうだし、電話もそうだけど、日本の文明の進歩というものは、速く行けて便利、速くできて便利ということを追いかけてきた。だけど、人間の脳みそは科学ほど順応性がない。人によってもスピードが異なるのに、「みんなと同じスピードで走りなさい」となると、どうしてもついていけない人間が出てくる。それを「しばらく

先生の役割とは

私はアメリカにいたとき、ワシントンのスミソニアン博物館の中の保育所で、ボランティアとして幼児部のアシスタントをしていました。アメリカは進んでいるからなのか、コミュニケーション能力の育成にしっかりとメソッドがありますね。

たとえば、四〜五歳の子に、日直みたいなものを任せるんです。一日に二人、君たちがリーダーだよって。子どもたちはリーダーになる日、自分の宝物を持ってきて、みんなに披露する。これはどうして自分にとって宝物なのかをスピーチするの。「これは去年、おじいちゃんにクリスマスプレゼントに買ってもらった、これは機能的にこういうところが、ぼくは気に入っている。ここを押すとこうやって動くんだ」と。機関車でもなんでもいいんだけど、とにかく宝物に関するスピーチをする。

それで、「これを一日どうする？」って先生が聞くのね。そうすると、「ぼくが見ているところならば、触ってよろしい」とか、「絶対触っちゃだめ」とか、「好きに触って

いい」とか、どう取り扱うかをリーダーが決める。その約束は守るようということ。一日過ぎずです。この年頃からスピッチをしているのかと思つたら、すごいですよ。もちろん、みんなが優等生じゃないし、できない子もいるかもしれないけど、自分の番は必ず回ってくる。

それと、もう一つ驚いたことがあつて。この保育所はスミソニアン博物館の一角にあるから、自然史博物館とか、アメリカ歴史博物館とかに、ぞろぞろと二列縦隊でみんなで行く。そこに学芸員のお母さんがいたりすると、時間が空いていけば、子どもたちを案内してくれたりする。

あるとき、保育士の先生が、「今日はみんなで美術館に行く。みんなが見に行く絵は先生はまだ見てないんだけど、ものすごく大きな抽象画だ」というんです。四五歳の子に抽象画見せるのかなと思つて聞いていたら、「すごく大きな絵なんで、絵描きさんは何日もかけて描いたんだ」と話し始める。「何日も何日も、朝から晩までアトリエで描き続けてた。ある朝、さあ、今日も描こうと思つたら、描きかけの絵の中に

ゴキブリが一匹バタッとくっついてた。うわつと思つてだけようとしたんだけど、面倒くさいと思つて、その上からペイントを塗っちゃった。だから、今日みんなが見る絵の中にはゴキブリが一匹潜んでる。さあ、探しに行こう」。

子どもたちにもう話してから出発するの。私の記憶では、グレーと黒とブルーと白の、幾何学模様が描かれた大きな絵でしたけど、確かにゴキブリの跡みたいのがあるんですね。先生が話したことは事実なの。私とその跡を見つけたら、「サワコ、すごい」と褒められた。

私がつくりしたのは、先生は、抽象画とは何なのかとか、これは誰が描いた絵だとか、国宝だとか、何も教えないこと。コックローチがいるんだということしか教えない。絵を見た後も「さあ、ランチタイムだから帰ろう」と帰っちゃう。それでどうなるかを想像すると、子どもたちの心の中には、コックローチがいた絵だということしか残らない。だけど、中学生になつて

しかするとちゃんと勉強するかもしれないし、「いや、数学のほうが好きだね、俺は」と思つかもしれないけど。

そういえば、本郷和人先生という日本史の先生も、同じようなことをおっしゃっていましたね。今は大学受験の影響もあつて、歴史が暗記科目になつちやうなことを憂いてらした。たとえば、「承久の乱は一二二一年」と。本当は「承久の乱を機に、朝廷から幕府へと完全に実権が移つて、明治維新までずっと武家社会が続いた」とか、歴史の見方のおもしろさをもつと伝えたい。年号とか単語を暗記するだけだから、子どもたちの歴史離れが起るんじゃないかと。それで、「大学受験に日本史を入れなかったら先生方は自由に教えられて、もつとおもしろい授業ができるようになるだろう」とおっしゃっていたのね。

暗記した点と点を線でつなぐと、興行きとおもしろさが変わってくるということ、学校でも教えてくれるといいなと思うのだから、まず興味をもたせて、おもしろいと思わせることが大事なんじゃないかな。



一人一人と向き合う教育を

今の子どもたちが何に関心をもつのかはわからないけど、友だちを作りたいたいと思うのはコミュニケーション能力の一つですよ。私が中学生になつたとき、あの子と友だちになりたいなと思つて「かわいいね、そのスカート」と話しかけたという昔話を同級生とよくします。「つまらない話題から始めたよね、私たち」って。でも、気がついたことをどういうふうを持ち出すか、一言からどう波紋が広がるかが大切です。だから、会社に入るためのコミュニケーション能力を身につけましょうなんて言うよりも、「友だちになりたいと思つている子に話しかけるときの、どんな話題を選ぶか」と生徒に問いかけて、「あ、その手があるか」とか、「あ、自分だったらこれだな」とか気づかせることができればいい。正解はなくていいと思うんです。

——学校の先生はどういう態度で接すれば、生徒が自分の考えを話せるよつになるのでしょうか。聞く側の人間である先生とかインタビュアーとか司会が、精一杯尽くしているけど、

また美術館に遊びに行つたとき、「俺、コックローチのいる絵知ってるよ」と、友だちに教えてあげるかもしれない。そのときに、「あ、隣にもちょっと色違いがあるんだ」と気づくかもしれないし、「抽象画って何なんだ？」と疑問をもつかもしれない。

その絵に近づきかけただけを作つたら、あとは放置するという考えなんですよ。これはすばらしい教育だと思つたんです。つまり、先生というものは、興味をもつきっかけを与えることを、正しいか正しくないかを教えるより優先するべきなんじゃないかと思ひました。そこから先は、も

完璧じゃないところもあることがわかると、「子どもは安心する。いざというときは、あなたたちを守るけれども、だからといって、完全な人間ではない。人間とはそういうものであつて、だめなところがある。だから、謝るときには子どもにだつて謝る。「ごめんなさい、私が間違っていました」と

言える先生は、信頼できるんじゃないかな。ただ、この先生はちゃんとみんなを、一人一人を見てくれているという絶対的な確信さえもつてもらえれば、先生が間違つたつていいんじゃないですか？ むしろ子どもに教えてもらうこともあるかも。でも、「あなたに大変興味があります」という心は、いつももつてないといけない。ちゃんと聞く気があるし、おもしろいと思つていきますと態度に示すことは、いわば先生から生徒に対する愛みたいなもの。だから、少子化は学校のビジネスとしては問題かもしれないけれど、今がチャンスなんじゃないかな。子どもの数が少ないからこそ、一人一人が見えてくるんじゃないかと期待しています。

(二〇一九年二月二日、聞き手・編集部)

授業の展開

時間	学習活動	主な学習形態
1	弁論のテーマを考える ・興味のあるテーマを書き出す。 ※テーマは社会的な問題を取り上げる。 ・気になるニュース、社会問題を書き出す。	全体説明 個人活動
2	テーマを決める ・気になるテーマ、ニュースについて調べる。 ・各自でテーマを決める。	
3	内容、構成を考える ・「事実・問題提起・意見・理由」を考え、構成する。	個人活動
4～6	原稿を書く ・各自 PC を使って原稿を作成する（Chromebook を使用）。 ※個別にアドバイスをしていく。	
7	スピーチの評価規準を作る ・動画（高校生弁論大会、TED など）を観て、良いスピーチの特徴を挙げる。 ・各自で、自分のスピーチで良くしたい観点を選ぶ。 ・評価規準表を作成する。	個人活動 グループ活動
8～9	スピーチの練習をする ・各自で作成した評価規準表を用いて練習する。 ・グループで相互評価を行う。 ・グループでアドバイスをし合う。	
10	原稿を書き直す ・プリントアウトした原稿を読み、推敲する。 ・教師からのフィードバック、友達からのアドバイスをもとにして、原稿を書き直す。	個人活動
11～13	発表 ・クラス内で発表会を行う。 ・内容、スピーチスキルをどう向上させたか振り返る。	全体発表

*次ページからは、実際の授業の様子をご紹介します。

学校訪問レポート

弁論大会に向けたスピーチの練習

【訪問校】
開智日本橋学園
中学・高等学校
(東京都)

【授業者】
関康平先生



私の学校と授業のねらい

関 康平

本校は、東京都中央区にある私立の中高一貫校です。中学生のうちから「探究」や「哲学対話」を行う中で、答えない問いについて考えたり、相手に意見を述べたりする活動を行ってきました。

高校一年生の学年行事として「弁論大会」を企画し、国語総合の授業内でそのための準備を行いました。単元の前半では、弁論大会でスピーチする内容を考えま

す。自分の興味や気になるニュースに基づいて、話すトピックを決め、スピーチ原稿を作成します。「事実・問題提起・意見・理由」を意識して書くよう促しました。文章を書き、フィードバックをもとに書き直す過程を通して、論理的に情報を伝える方法や、意見に説得力をもたせる述べ方を身につけていくのがねらいです。

後半は、スピーチスキルの向上を目標にしています。今回は、スピーチの評価規準を生徒自身に決めさせています。教師の規準で「良い」スピーチを求めすぎるとは、画一的だと感じたからです。生徒は自分が伸ばしたいポイント（声の大きさ、速さ、顔を上げる、等）を選び、そこに注意してスピーチ練習を行います。



順番にスピーチを行い、評価を伝える生徒たち。活発な意見交換がなされていました。



真剣にスピーチ原稿を確認する生徒たち。ノートパソコンも活用して、原稿や資料などを確認していました。



授業見学記

(取材：編集部)

【学年】
高校1年生
【人数】
19名

9ページ「授業の展開」のうち、第8～9時「スピーチの練習をする」の部分を実際に見学してきました。当日の授業の様子をご紹介します。

①自分の原稿を音読して練習する(10分)

授業が始まると、まず、これまでに作成したスピーチ原稿と評価シート(スピーチの評価基準表、12ページ参照)が先生から返却されました。

スピーチ原稿の提出方法は、授業時間外に先生にデータを送る形式とのこと。ノートパソコンを全員が持つており、課題提出や授業の際に常に活用しているようです。

原稿と評価シートが配られると、はじめは各自で練習。前時に作成した評価シートも確認しながら音読します。「自分で読みにくいところ、話しにくいところは、聞いている人にもわかりにくい部分です。そういった箇所を見つけたら、原稿に赤字でチェックを入れておきましょう。」と、音読の際の着目点も、先生から提示されていました。

②スピーチの際に意識したい観点を書き出す(5分)

音読が終わると、本時のスピーチ練習で気をつけたいことを、評価シートに書き出します。今回の活動では、評価

基準を生徒自身が決めるようにしているとのこと。「声の大きさ」「話すスピード」「リズム」「抑揚」などの観点を各自で設定し、自前のルーブリックを作成していました。

③グループで読み合わせを行い、相互評価する(30分)

評価シートが完成すると、次は四人一組のグループになって、スピーチの読み合わせがはじまりました。

まず、一人の発表者が評価の観点をグループのメンバーに伝えてスピーチを行い、ほかのメンバーはその観点をチェックしながらスピーチを聴きます。

これまでの授業で、どのようなスピーチが良いのかを考えてきているだけあって、単にスピーチ原稿を読み上げるのではなく、語りかけたり、質問を投げかけたりと、聴いている人を意識した話し方がしっかりとできていました。聴く側も、身ぶり手ぶりで、「もっと声を大きく」「顔をあげて」といったこと伝えているのが印象的でした。

また、スピーチの題材については、「社会的な問題」を取り上げることが、今回の共通課題とされていたとのこと。そのため、「難民」「いじめ」「震災」「esports」「待機児童」「少年法」など、みなさん、かなり高度な内容のテーマに、果敢に取り組んでいました。

一人のスピーチが終わると、まずはみんなで拍手！(こういった雰囲気作りも大切にされているのだなと感じまし

◆**関** 今回の授業で特に力を入れたことは何ですか。
 生徒たちが主体的に選択できるようにすること、それを一つの大きな目標としていました。スピーチのテーマも、こちらが何かお題を与えるのではなく、時間をかけて、自分で設定するようにしました。また、スピーチの評価規準も生徒たちが各自で決めていきます。はじめにTEDのスピーチなど、動画をいくつか見せ、「こうい

た。その後、先ほど作成した評価シートを使つての評価です。「はじめはよかつたけど、だんだん声が小さくなってたんじゃない?」「相手の目を見るとき項目はクリアできてたよね」など、遠慮なくスピーチの仕方について評価し合っていました。さらに余裕のあるグループは、資料の必要や説明の順序など、スピーチの内容にまで話が及んでいました。
 授業の間、先生は生徒の様子を見ながら机間巡視。原稿がまだ不十分な生徒には、「何を一番伝えたいのかな?」、原稿を読みづらく感じている生徒には「書き言葉と話し言葉とちよつと違うよね」など、適宜アドバイスしてました。

——(編集部) 本日は、ありがとうございます。生徒さんたちはとても活発で、話し合う活動にかなり慣れているように感じました。
 ◆**関** 国語科に限らず、本校全体として、講義だけの授業にならないよう、取り組んでいます。クラスの人数も二〇人程度で、中高一貫校ということもあり、高校段階では、ある程度話すことに慣れているかもしれません。中学一年生から哲学対話などの活動にも取り組んでいます。
 —— 今回の授業で特に力を入れたことは何ですか。

◆**関** 想像していたより、みんな聴く態度がよかつたように思います。どのようなテーマについて話すのか、苦労して決めているということがお互いに分かっているの、相手の話をしっかり聴かなくては、という気持ちに自然となつていたのではないかと思います。
 —— 今後の展望はありますか。
 ◆**関** 今回は、弁論大会に向けたスピーチの練習ということで、ある意味「直接的」に相手にメッセージを伝える方法を学びました。このことを押さえてつ、次は、小説や詩など、「間接的」に相手にメッセージを伝える方法もあるということに気づかせたいなと思います。
 また、今回自分でテーマを立てる、ということにかなり力を入れたので、今後の授業の中で論説文などを読む際も、自分の中で、問題意識を持つて読んでいってほしいなと思います。
 —— ありがとうございます。

「授業者 関康平先生インタビュー」 生徒が自分で 選択できるように



2018年度 1期生
 「弁論大会」評価シート
 () 組 名前 ()

観点	bad	not bad	good	excellent

.....

観点	bad	not bad	good	excellent

.....

評価シート



机間巡視する関先生。スピーチの内容から話し方まで、生徒たちにさまざまなアドバイスをしていました。

④ 授業の振り返りをする (5分)
 最後に、授業の振り返りを評価シートに書いて提出。
 次回の授業では、グループで話し合いながら、スピーチ原稿の書き直しを進めていくとのこと。さらにその際の視点として、自分のスピーチの中に「問題提起」「意見」「理由」がきちんと入っているかに注意する、ということが紹介されました。
 生徒たちのスピーチは、弁論大会までに、まだまだ上達していきそうです。
 (二〇一九年二月)

「記者会見」を行う

多様な立場から行う「話すこと・聞くこと」の活動

なかのとしき
仲野敏樹
東京都立八王子東高等学校



■はじめに

現行学習指導要領の「国語表現」で「生徒の実態等に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができる。」とされていた内容の取扱いが、平成30年3月に公示された新学習指導要領による新科目「国語表現」では、「話すこと・聞くこと」に関する指導については、40〜50単位時間、「書くこと」に関する指導については、90〜100単位時間を配当するもの、となり、配当時間が明示されるようになった。

これまで学校現場において、「国語表現」は「書くこと」に重点を置く教材と考えられ、その副次的な学習内容として「話すこと・聞くこと」が取り上げられることが多

かった。しかし、今後は「話すこと・聞くこと」の思考力、判断力、表現力等の育成そのものを目標とした授業が行われなければならない。

このことは、時代の趨勢とも関連している。国際化やAIの急速な発展など生徒を取り巻く環境の変化を考えれば、新学習指導要領の「国語表現」の目標にある「実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること」が更に必要となり、「話すこと・聞くこと」の授業の重要性は必然的に増してくるものと思われる。

そこで、現行「国語表現」の授業の中で、新科目「国語表現」の内容も先取りした「話すこと・聞くこと」の授業を考えた。

■「記者会見」を行う

○単元名 「記者会見」を行う

○目標 現行「国語表現」(1) 指導事項エ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること。

○言語活動 同(2) 言語活動例ア 様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり討論したりすること。

○単元のねらい

本単元では、「文化祭の企画案」や「修学旅行のコース案」、「学校・地域への提言」など、生徒が身近に感じられ、意見を出しやすいテーマを設定し、4〜6人の班を作って発表のための準備を進める。

その発表の際に「記者会見」という場を設定することで、一つの単元の中で「話し手」と「聞き手」という関係だけでなく、「発表者」「記者(質問者)」「司会(進行者)」という3つの異なった立場から「話すこと・聞くこと」の活動が行えることを意識したい。活動を通し、「立場が変わることで異なる工夫点や注意点」「立場が変わっても共通する工夫点や注意点」があることを確認することもできる。

「発表者(班)」は、主張の中心、アビ

①発表のタイトルと発表者名
「全然」の使われ方
3年A組 佐藤真知

②調査の動機と問題設定
動機
●学校では「全然(い)と学習するが、特に若い人の間で「全然(い)と使われたい」場面が見られるように感じる。
「使われたい」場面は「全然(い)と使われたい場面」があるのか、使われ方に特徴はあるのか

③調査方法
調査方法
①高校生のアンケート調査
②大学教員や社会人(主婦)のアンケート調査
③発表者のアンケート調査
④日本語の文法に関する書籍の文献調査

④調査結果
アンケート調査の結果
●高校生の調査結果
●大学教員や社会人の調査結果
●発表者の調査結果

⑤考察
考察
●動機と目的性
●調査結果の整理
●調査結果の整理
●動機や大正時代では異なるという認識がなかったのでは無い
●動機や大正時代では異なるという認識がなかったのでは無い

⑥感想、今後の課題、参考文献等
感想
●動機や大正時代では異なるという認識がなかったのでは無い
●動機や大正時代では異なるという認識がなかったのでは無い
●動機や大正時代では異なるという認識がなかったのでは無い

参考文献
●国語表現(改訂版) 国語表現(改訂版) 国語表現(改訂版)
●国語表現(改訂版) 国語表現(改訂版) 国語表現(改訂版)

▲「国語表現 改訂版」『プレゼンテーションの工夫』

ルポイントを明確にし、そのことを伝えるための視聴覚資料や印刷物なども作成する。会見の際に、どのような構成で発表するのかを決めることも大切になってくる(大修館書店『国語表現 改訂版』『プレゼンテーションの工夫』参照)。

「記者(班)」は、発表内容から、どのような点が分からなかったのか、発表された内容を更に細かいものにするには、どのような点を更に細かく聞けばいいのかを明確にする。質問する際には、質問する項目(例えば「修学旅行のコース案」であれば、「費用」「時間」など)、その具体的な内容、何が知りたいのかが分かるよう系統立てて話すことも大切である(同「働く人にインタビュー」参照)。

「記者(班)」は、「司会(班)」は、「記者」からの質問の内容をメモに取り、同じ項目に関する質問があるかどうかを他の「記者(班)」にも尋ねたり、場合によっては質問の内容を要約した上で、「記者」に内容を確認したりすることも必要になる(同「議論して結論を出す」参照)。

また、授業を進めるにあたっては「発表内容のよさを更に引き出すための記者会見」であることを生徒に意識させたい。高校の授業における「話し合う」活動は、とすると一つの結論を導くための「討論型」だけが取り上げられがちである。もちろん一つの結論を導き出す討論は大切であるが、それだけが「話し合う」力ではない。新科目「国語表現」の「話すこと・聞くこと」における指導事項でも「自分の主張の合理性が伝わる」ことを目的とした指導事項と「自分の思いや考えが伝わる」ことを目的とした指導事項とに系統立てて記されている。他者の発表を肯定的に聞き、よさを引き出すための「話し合う」活動を意識させ、「実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする」力を育成したい。

○単元計画（全4時）

第1・2時

- ①決められたテーマに基づき、グループごとに、視聴覚資料や印刷物などを含めた記者会見の発表台本を作る。
- ※授業時数等の関係で、テーマの設定や視聴覚資料、印刷物などは、これまでの学習で作成したものを活用することも考えられる。

第3時

- ①記者会見のルールについて確認する。
- 「記者会見のルール」
- ・クラスの全グループが交代で「発表班」「記者（質問者）班」「司会・進行班」を担当する。
- ・「発表班」が記者発表を行う。（3分）
- ・「記者（質問者）班」「発表班」「司会・進行班」以外の全ての班が質問を決めるための「質問タイム」を取って、話し合いを行う。（1分）
- ・「司会・進行班」の進行で質疑応答を行う。質問の内容によっては「発表班」が「回答タイム」（1分）を取ることが可能とする。

・「評価シート」をもとに他班の評価を行う。

第4時

- ②班ごとに役割を交代し、記者会見を行う。
- ①班ごとに役割を交代し、記者会見を行う。
- ②クラス全員による投票を行い、「ベスト発表班」「ベスト記者（質問者）班」「ベスト司会班」を決め、どういった点がよかったかについて、クラス全員で話し合う。
- 投票に当たっては、単なる「人気投票」とならないよう、「評価シート」の項目に沿って「よかった班」を選ぶよう確認する。
- また、投票の方法については「付箋を用いた投票」を勧めたい。
- 投票後にクラス全員で話し合う活動を行う際、自分の意見を発表するのが苦手な生徒がいることや、話し合いが活発に行われない場合も想定される。各生徒が自分の氏名とよいと思った理由を付箋に書き、黒板に貼って投票することで、投票結果や各生徒の考えが可視化される。また、付箋に書かれた理由をもとに、更なる感想を求めた、反対の理由を記入した生徒に感想を求め、異なる考え方を対比させたりすること

評価の際に心がけている五つのポイント

評価 × 「話す・聞く」授業活性化のアイデア

と」に起因します。「読むこと」「書くこと」

は文字や文章として手元に残る安心感があります。 「話すこと・聞くこと」はその場限りのものという印象が強く、授業内でコメントロールしにくい、評価しにくいという苦手意識と緊張がありました。しかしそれは「食わず嫌い」に近いものだったと今は思います。私のつたない経験ではありますが、「話す・聞く」授業の評価についてご紹介いたします。

私が授業を活性化するためにも心がけていることは以下の点です。

- ①評価の観点、基準を事前に明らかにする。
- ②自己評価・相互評価を行わせる。
- ③必ずよい点を評価する。
- ④相互評価の結果を教員の評価に反映する。

で、話し合いを深めることが可能となる。生徒の話し合いを最大限に生かす意味からも、教員が自分の言葉で授業をまとめるのではなく、生徒の言葉を紡ぎながら授業をまとめていきたい。

- ③グループに分かれて、よかった点、改善点について話し合い、振り返りを行う。

■まとめにかえて

これまで「話すこと・聞くこと」の学習活動は「書くこと」「読むこと」の学習活動の副次的なものとして取り上げられがちであったが、日常生活を振り返ってみれば、他者とのコミュニケーションの中心にあるものは「話すこと・聞くこと」であることに、多くの人が思い至るであろう。「話すこと・聞くこと」の思考力、判断力、表現力等の向上なくして、他者とのコミュニケーション能力の向上はあり得ないのである。

他者との多様なコミュニケーションが求められる現代社会にあつて、今こそ私たち国語科の教員が「話すこと・聞くこと」の授業に正面から取り組む必要があると実感している。

しもにし 下西美穂

東京都立江戸川高等学校



- ⑤その場で評価を伝える。それぞれについてお話ししていきます。

①評価の観点、基準を事前に明らかにする。どの領域の指導においても同様ですが、その単元や授業において、生徒が何をできるようにしなければよいのかを明確にすることは非常に重要です。目標を示し、それに沿った評価の観点を活動の前に明確に示します。生徒自身が何を目標に進むべきかが明確であれば、その授業でやるべきことが明確になり、必然的に授業は活性化します。ここを失敗すると……グダグダな授業になりかねません。わかりやすく具体的な基準を示すことが大切です。私は黒板で明示するとともに、自己評価表、相互評価表を配

布し、事前に説明しています。声の出し方、目線、言葉遣い、相手への態度、質問の仕方などについては、私は教壇でよい例と悪い例を演演しながら説明します。「こんなふうを下を向いてぼそぼそ言ってるの聞こえる？」「勇気を出して質問したのに、私が『は？』なんて言ったらどう思う？」などと説明すると、笑いながらも生徒は確実によい例を理解してくれます。

②自己評価・相互評価を行わせる。

自己評価表、相互評価表プリントを生徒に配布します。自己評価表には、評価とともに、次回に向けての自らの改善点を書かせる欄などを設けてもよいでしょう。自らの活動・学習を振り返り、次回へつなげることが出来ます。自己評価表があることで、生徒は評価基準を何度でも見直すことができ、何に気を付ければよいかを意識できます。また、相互評価があるという意識によって、他者を意識して「話す・聞く」の活動を行うことが出来ます。「話す・聞く」は必ず他者があって成り立つものです。相互評価でよい評価を得ようという意識は、他

者を意識した、他者を尊重した「話す・聞く」活動を促すのではないのでしょうか。

③必ずよい点を評価する。

相互評価表へは、相手もしくは発表グループなどへのコメント欄を設けます。この際、必ずよい点を一点は記入することをルールとします。気になる点を記入する場合は、「今回はこのようにするともっとよくなると思います」と次回へのアドバイスとして記入するようにさせます。特に「話す・聞く」の授業において私が大事にしていることは、教室が安心・安全な場であることです。大人であっても、自分の意見や考えを人前で話すのは緊張するものです。さらにそれを評価されるとなると緊張度は増します。間違えても大丈夫、評価においても攻撃されることはないという安心感は、授業において絶対不可欠なものだと思います。人は、褒められればうれしく、やる気が出るものです。このルールは授業の活性化にも大いに貢献してくれます。相互評価表プリントは、回収し、私が確認したのち、該当者に返却しています。

④相互評価の結果を教員の評価に反映する。

クラス全員に向けての発表活動など、多くの相互評価表が手に入る際には、生徒の相互評価を、教員がつける最終的な評価にも反映させていきます。「話す・聞く」は、相手に伝わったかどうか、相手が「よい」と思う話し方・聞き方だったのかどうか、大切で、「相手」であった生徒の評価を取り入れるのは理にかなったことだと思えます。目標と評価基準、「話す・聞く」の活動をする意味を生徒たちにきちんと理解させることができなければ、おおむね正当な評価をしてくれます。相互評価を最終的な評価に取り入れることはもちろん生徒にも伝えます。これにより、相互評価への取り組み具合は本気度を増します。正しく評価できることも力であることを生徒に伝えます。

⑤その場で評価を伝える。

「話す・聞く」は記録に残すことが難しいものです。動画や音声で残すことは可能ですが、それを再度職員室でチェックして評価するのは時間も手間もかかります。私は、発表などについてはその場で私か

らの評価を生徒に伝えます。さきほどのルール「必ずよい点を伝える」「気になる点を伝える際は、アドバイスとして伝える」に私も従います。発表やスピーチなどの場合は、最初に担当する生徒は緊張度が高く、うまくいかないことも多いものです。後半に担当する生徒の方が、ほかの生徒の発表やスピーチを聞いて、「ああすればいいんだ」「この考えは取り入れよう」などとよりよくしていくチャンスがあります。その点を考慮していることを生徒たちに伝えます。「最初だから緊張するよね。最初に担当してくれる勇気の分をプラスするからね！」「さあ最後のグループです。これまででわかってきたはずだし、考えも深まっているはずだね。ハードル高いぞー！」などと声をかけたり、この点を踏まえて発表順を生徒たちに決めさせたりします。他者の発表を見て、よい点は参考にしようという意識を持ってもらえますし、発表やスピーチという緊張の場ですが、ゲーム感覚が出てきてクラスが元気になります。

「聞く」の評価は、聞く態度に加え、「質

問が建設的なものかどうか、クラスの学習に貢献するものであるか」という点を評価しています。発表に対して質問を投げかけた生徒にも、その場で「根拠をもとにしたいい質問だったね」などと評価を伝えます。話し合いなどの場合は、グループの問を歩き回り、「この考えの根拠は何？」「全員が意見を言える場を作っているいいね！」など声をかけるとともに、付箋に書き込んでグループみんなに見えるところ（机や共有プリントなど）に貼ることもあります。

その場で評価を

伝えることで、周りの生徒もよりよくするきっかけやポイントをつかめますし、学習活動をよりよい方向へ修正することもできます。

【指導資料 言語活動編】には、教科書中の教材を用

【指導資料 言語活動編】「夢十夜」

発表の相互評価	
姿勢・態度	5・4・3・2・1
声の大きさ	5・4・3・2・1
話し方のわかりやすさ	5・4・3・2・1
根拠をもとに、他者を尊重しているか	5・4・3・2・1
グループで考えを深めることができているか	5・4・3・2・1
発表グループへのコメント	

評価観点	評価基準		
	A できた！	B だいたいできた	C 次 がんばりましょう！
真実性	話し合いの趣旨的に取り組み、よりよい活動となるよう工夫した。	話し合いの趣旨的に取り組んだ。	話し合いの趣旨にそぐわなかった。
関心	カラーグループでもった質問について、適切な根拠に基づいて説明ができた。	カラーグループでもった質問について、説明することができた。	カラーグループでもった質問について、考えがなかった。
話す・聞く	自分の考えを他者に話し、他の人の意見を聞いて対話できた。自分なりの見解や考えを述べることができた。	自分の考えを他者に話し、自分の意見を述べた。自分の考えとほかの人の意見を聞き取ることができた。	自分の意見を述べたが、自分の考えを述べることができなかった。自分の考えとほかの人の意見を聞き取ることができなかった。
知識	語句の意味がわかり、使いこなすことができた。	語句についてだいたいの意味がわかった。	語句の意味を正確に調べた。

※十夜「自己評価シート」

【夢十夜】の発表の様子を撮影し、その場で評価を伝える。生徒は、自分の発表を振り返り、次回への改善点を書き込む。また、相手の発表を評価し、よい点を伝える。この活動を通じて、生徒は自己評価と相互評価の大切さを学び、学習意欲を高めることができる。

「対話の中で学ぶ能力」の育成

きたくぼ ゆき
北久保友希
東京都立南多摩中等教育学校



■はじめに

対話を通して学びを深める授業づくりは、次期学習指導要領の中心に据えられたテーマである。本格的な探究型学習を進める文脈からも「話すこと・聞くこと」の指導は重要度と緊急性を増しており、対話によって学びを深める能力の育成は、国語科が担う言語能力の一つと言える。

「現代の国語」と「国語表現」という学習や日常生活の基盤を築く二科目に「話すこと・聞くこと」が設定されているということは、この能力の重要性の現れだろう。特に高校一年で履修する「現代の国語」において確実に能力を培い、他科目他教科の学習に転用させることが求められる。どの程度「話すこと・聞くこと」を高めたかは、

「話すこと・聞くこと」の能力を養成したといえるのか。この問いに対する本稿の主張は、次の通りである。生徒が自ら、①考察をすることを意識して展開し、②話すことについて、対他者へのプレゼン能力としての側面と、思考ツールとして利用可能な側面という二側面から理解し習得すれば、この能力を養成したと見なす。本稿では、この主張について確認するため、私自身の実践例を提示する。

■「話すこと・聞くこと」の指導の二側面

「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の配当時間は二〇〜三〇単位時間程度、同科目の三〜四割を占めると規定されており、指導事項は次の五項目である。

ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集し整理して、伝え合う内容を検討すること。

イ 自分の考えを的確に伝えるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。

ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場

その後の学習の深さを左右すると言える。

しかし、一方で、「話すこと・聞くこと」の授業の難しさは、「読むこと」「書くこと」の授業よりも多層的であることも指摘されている。一つはただのおしゃべりではなく、「思考力・判断力・表現力」に帰する「話すこと・聞くこと」の能力の育成になっていくかという難しさ、もう一つは、発達段階が抱える難しさである。

私の経験では、いざ生徒が話す授業を作ろうと思っても、最初はうまくいかなかった。生徒に「〜について話してみよう」と時間とテーマを与えるだけでは、生徒は単純に声を出すことを求められていると勘違いし、思考力・判断力・表現力を培うための「話すこと・聞くこと」の活動伸長につ

の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

この五項目をここでは次の二つに分類する。一つは、他者に対して発表・プレゼンするときに関わる項目【対他者項目】(イ・ウ)、もう一つが、思考に関与し、自分の考えの変容を導き出すツールとしての項目【思考項目】(ア・エ・オ)である。(これら二項目は相互に関連していることは承知しているが、あくまで便宜的に分けた。)

というのも、新学習指導要領の設定している対話の相手は、必ずしも自身の他者ではなく、文章や自分自身の場合もある。その線引きを意識すると、「話すこと・聞くこと」の持つ二面性が浮かび上がり、焦点を

ながる手応えは得られなかった。また、高校生になると(思春期ゆえ)自分の発言に対する周りの評価を気にするようになるため、発達段階の面からも発言が出にくい傾向にある。これが、難しさにつながっていた。教員同士の話に「反応が良いクラス」「発言の多いクラス」という言葉が出てくることがあるが、今後の国語の授業では、「反応や発言があるだけで慢心してはならない」ということ、そして「反応が出にくいクラス」こそ話させるようにしていく指導が求められているということを痛感した。

それでは「話すこと・聞くこと」の授業は、①どのように展開すれば、活性化し、②どのようなポイント(側面)を押さえれば「思考力・判断力・表現力」における「話

あてた授業を展開しやすくなる。

この中で能力の伸長が確認しにくく、評価も難しくなるのが後者の【思考項目】である。先述した「ただのおしゃべり」にならないためにも、生徒の思考に評価を与えるためにも、この【思考項目】を指導する際には、ポスターセッションやプレゼン、作文などの成果物の作成をセットにすると、理解の深化が見込まれると感じている。この二面性を意識し、次の実践を行った。

■指導事例

『新編国語総合 改訂版』「表現の窓5 調べたことを報告しよう」(114ページ)

○単元の概要

金田一春彦「漢字の性格」(58ページ)を履修後に、調べ学習を設定した。授業の中で、漢字についての分類について一通りの説明を受けた生徒達は、四〜五人一班に別れて、自分たちで日本語に関するテーマ(問い)を設定し、調べ学習を行った。

活動場所は所属校の図書室、教材はワークシート、ポスター用模造紙、サインペンである。

○指導事項

第一次 「現代の国語」 話す・聞く ア・オ
第二次 「現代の国語」 話す・聞く ウ・エ
○授業の展開(全四時間)

【第一次】(一・二時間目)

①目標と課題の提示。

②四人班(または五人班)に別れて、テーマ(問い)設定のための話し合い。

③図書室にて役割分担をして調べ学習、またはアンケート調査。その後班長のワークシートに記入して、ポスター案を作成。考察が書いたら教師に見せる。

④ポスター案が、A見やすいか、B言いたいことがわかりやすいか、C問いに対する答えになっているか、話し合い、練り直す。

⑤自分の発言の中で、班の発表内容に貢献したものを一二つ記録する。

【第二次】(三・四時間目)

①発表に向けての発表原稿づくり、役割分担。ポスターの完成。

②各班5分で発表し、相互に評価する。

○各班のテーマ(抜粋)

数字に込められた意味について/Do

ついでに、教師が評価する。

【第二次】

(1)発表の形式

号令以外は発表の形式は問わない。わかりやすいか、適切な分析かを問う。

発表の形式はいわゆるポスターセッションの枠に捕われない内容も可としたところ、茨城弁を話せる生徒にインタビューする場面や観衆に即時アンケートをとって理解度を確認する場面などが見られた。聴衆を引き込むための工夫が引き出された。

表 現 の 窓 5
調べたことを報告しよう

<p>活動の手順</p> <p>1 テーマを決める ・日本語や言葉に関連したテーマを立てる。</p> <p>2 調査方法を考える ・対人調査 ・文献調査 ・実地調査 など。</p> <p>3 調査をする ・アンケートやインタビューを行う。 ・図書館などで調べる。</p> <p>4 文章にまとめる ・構成に注意して書く。</p>	<p>「水の東西」では、鹿おとしと噴水との比較を通して日本の伝統文化の特徴が述べられていた。また、「季節の言葉と出会」では、季節を例にして日本語の語彙の豊かさを知ることができた。</p> <p>ここでは、日本語について興味をもったことを調べ、報告書にまとめてみよう。調べ方を工夫し、日本語に対する認識を深めよう。</p>
<p>1 テーマを決めよう 日本語についてどのようなことを調べると、テーマを決めよう。</p> <p>例 ・住んでいる街の看板の表記の特徴 ・高校生の敬語意識 ・春の季節の語彙とその歴史、代表句 ・高校生の季節認知度 ・若者言葉で大人たちはどう感じているか</p> <p>2 調べ方を考えよう 決めたテーマにかきやすい調べ方を考えよう。</p> <p>調べ方の種類 ・対人調査：アンケート、インタビューなど。 ・文献調査：辞書や事典、参考文献などで調べる。 ・実地調査：現地を観察したり写真を撮ったりする。 インターネットを活用することも考えられる。</p>	<p>11 調べたことを報告しよう</p> <p>とを書くのか各項目について説明を加える。その際、「結果と考察の違い」について強調し、結果から何が読み取れるのかを考察することに、今回の授業の焦点があることを伝える。生徒は必然的に話し合う必要に迫られることになる。</p> <p>(2)話し合いにおける貢献度 自分の発言をメモさせることで、班の活動への貢献意識を上げる。内容の適確さに</p>

▲「新編国語総合 改訂版」[表現の窓5 調べたことを報告しよう]

<p>レポートの構成を確認しながら、それぞれの内容をメモしよう。</p>
<p>題名</p>
<p>1. 課題</p>
<p>2. 調査の方法</p>
<p>3. 調査の結果</p>
<p>4. 考察</p>
<p>5. 参考資料</p>

▲ワークシート

リア充…って何?

1C 柴田、島田 1D 関谷、多久島、田中

～調査方法～
1. 本 2. インターネット 3. アンケート

～課題～
「リア充」は「リアルに充実」なのに、なぜ恋愛に結びつくのか分からなかった。

～調査結果～

3. 「リア充」の使い方
1. リアルな世界ではなく、リアルな現実圧迫が充実している人。彼氏、彼女がいる人。
2. リアル(現実)の圧迫が充実している人物を羨む「2ちゃんねる」の「インターネット」で「リアル」を探し、他人のリアルな生活を知りたい。【リアル充覚悟・リア充】をやり始める。
3. リアルの使い方についてCD制作1組、22人にアンケートをした。(右図結果)
・リアル(現実)の圧迫が充実している人物を羨むという人が10人
・現実の充実「人」業い時4人
・その他4人

～考察～
現代の若者は「私生活が充実している=彼氏、彼女がいる」と考える傾向があるので、「リア充」は「カレカノ関係をはやしめる時」に使うことが多いと考えられる。

※参考資料 「現代用語の基礎知識」、「ウキマヤのリア充」

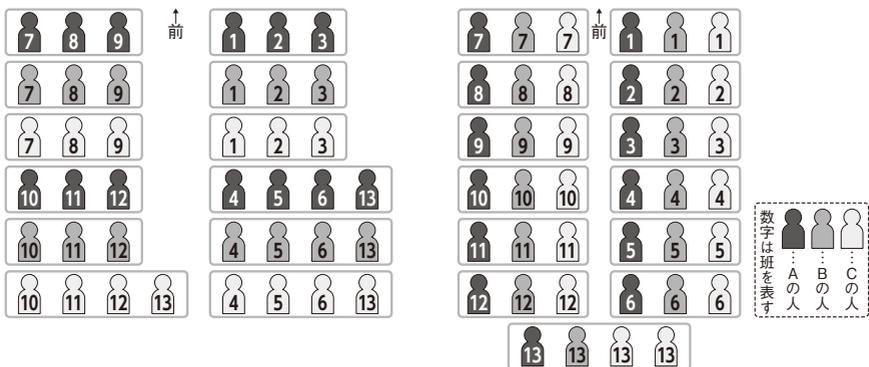
▲生徒のポスター作品

(2)ポスターの内容と見やすさを評価
発表の内容とは別に、ポスターの出来栄についても評価を行い、高評価を得たものは廊下に掲示した。

■まとめにかえて

学期末の時間を利用しての授業であったため、十分な時間を留意することはできなかったが、生徒は前半と後半で異なる能力を培うことができた。前半の生徒の感想には、「話すことで自分がわかっていかなかった

ところ気づいた」「人に説明しようとしたら、もう一回頭の中を整理しなきゃならん」と気づいた」という言葉があった一方、後半の感想では、「みんなにわかってもらえて嬉しかった」「もともと、わかりやすくてできた」という、他者を意識した感想が並ぶ。今後は教科探究や、他教科との連携も視野に入れた指導が求められていくであろう。国語科が教科として、学力の支えをするためには何か、今後も模索していきたい。



▲移動例 (4)

▲グループ分けの例 (2, 5)

古典でも「話す・聞く」

古典 X 「話す・聞く」授業活性化のアイデア

倉部康
くらべやすし
東京都立向丘高等学校



■授業の目標

古典でも「話す・聞く」を取り入れて、授業を活性化させて、本文の読解を深めさせたけれど、結構難しいという印象があるかもしれません。今回提案させてもらう授業は、教科書を最大限に活用し、ジグソー法を取り入れたものです。生徒が主体的に本文に向き合い、活動過程で、必然的に生徒同士で話したり聞いたりしながら、既得の知識と新しい知識を活用し本文を読解することを目標にしています。

今回は『伊勢物語』「芥川」ですが、ほかの教材でも行うことは可能です。私は、新しい教材に入った最初に毎回このパターンの授業を行っています。次時以降に本文の文法的な説明などを補っていき、文法事項

などの確認や内容の確認を必要に応じて行うと良いと思います。

■指導案

本時は「芥川」の教材に入った最初の授業に行います。授業の流れを説明していきます。

① 教員の説明 (2分)

活動に入る前に、生徒には次の2点を納得してもらいます。やはり、なぜこのような活動をするのかを生徒にしっかり理解してもらうことが、活動を学習にするためには大事なかなと思います。

①自分の担当部分を理解し、説明できるように話せば、最終的な問いに根拠を持って答えられるようになっていく。

②知識を活用することで、知識の定着を促したい。なので、しっかりと考え、話したり聞いたりして欲しい。活動に入ってしまうと、教員の指示はなかなか生徒に通りにくくなってしまいがちです。また、活動中に教師が何かを言うと、せつかくの生徒の集中を分散する可能性もあります。活動に入る前に、授業の目的、意義を生徒には伝えます。

② グループ活動 (1分)

生徒は三人一組になり、ABCの役割を決めてもらいます。

Aの人は「昔、男ありけり。」「男に問ひける。」

Bの人は「ゆく先多く、」「鬼はや一口に食ひてけり。」

Cの人は「あなや。」「消えなましものを、」担当します。

四十人学級の場合、一つのグループが4人になってしまうと思います。4人のグループは、Cの担当が大変そうなので、Cの役割を2人にするのがいいと思います。

③ 個人活動 (12分)

自分の担当部分で、

①ワークシート (27ページ参照) の傍線部の助動詞の意味と活用形を考える。

②担当部分全体の現代語訳を考える。

③担当部分に関する問いの答えを考える。

という3つの作業を行い、ワークシートに答えを書き込んでいきます。各部分に関する問いは、担当部分の理解を深めることを目的としています。ただし、Cの問いに関しては、ABの内容と共に読んでようやく理解できるものになっていきます。あとの⑤の段階に入ってからCの生徒は問いに対する回答を自信を持って出すことができるようになります。

⑤ 答えを自信を持って出すことができるようになります。すぐに解決しない問いが入っていると、あとで「あーなるほど!」という要素が増えるので、す

ぐに解決できる問いだけにならないようにしてあります。

④ グループ活動 (10分)

AはA、BはB、CはCの人たちで集まり考え、個人活動の答えの共有を行います。初めは移動がスムーズにいかないで多少時間がかかります。移動先を黒板などを使用して図示してあげると生徒の移動はスムーズになります。一回やれば生徒は慣れるので、次にやる時はスムーズに移動できるようにになります。グループワーク中、生徒は適宜自分のワークシートに加筆修正をして、担当部分について後の⑤の段階ではかの人に説明できるように準備します。細かい品詞分解をじっくりやっていると時間が足りないのので、教員は適宜残り時間を全体に伝えてください。

この段階では、必ず自分の担当箇所の話の流れが説明できるということ、問いの答えをしっかりと説明できるようにすることの二つが重要です。細かい文法的な部分は次時以降で確認できますので、今はあまり気にせず生徒のやり取りを見守るのがいいかなと思います。

⑤ グループ活動 (15分)

②の段階でなった三人組になり、それぞれの担当部分の内容や問い、文法事項の説明を行います。その上で、ワークシートの問1にグループで取り組みます。ここでは、細かい文法事項の説明をしたがる生徒もいるとは思いますが、時間が足りなくなりま
す。④の時と同様に、教員は適宜残り時間を全体に伝えてください。

この段階では、ABCの話の流れを理解する、各問の答えを理解するという二つ
のことができていれば良いです。ここまで
ができていれば、次の個人活動も有意義な
ものになると思います。

⑥ 個人活動 (10分)

座席を普段の状態に戻します。最後の「こ
れは、二条の後の…」の部分を読み、ワー
クシートの問2に個人で取り組みます。生
徒によっては、個人で読み解くのは難しい
かもしれません。その際には、ある程度の
教えあいがあっても良いと思います。この
段階まで教えあっていると思うので、教え
あうことはすんなりできると思います。
また、最後の部分で突然固有名詞が連続

で出てくるので、戸惑う生徒が出てくる
と思います。教科書の系図を見ながら考える
ように生徒に伝えると理解しやすくなる
と思うので、適宜板書などで伝えてあげて
ください。

この段階では、⑤の段階までで理解した
内容と最後の部分を関連づけて、最後の段
落がどのような働きをしているのかを考え
ます。その上で、本文全体がどういった話
なのかを理解することにつなげられれば良
いです。

■評価に関して

基本的にはワークシートの記述内容から
生徒の理解度や知識の活用状況を判断しま
す。本時の目標は、「生徒が主体的に本文に
向き合い、話したり聞いたりしながら、身
につけた知識などを活用し本文を読解する
こと」であるので、生徒のワークシートを
点検する際に見るのは、ワークシートの問
1、問2の記述内容です。問1の記述は本
文のおおよその流れがつかめていれば良い
と判断します。問2の記述は、最後の段落
が、それ以前の段落とどのように関連して

いるのかの説明できていれば良いと判断し
ます。

■「話す・聞く」に関して

今回の授業案は、グループワークを通し
て必然的に「話す・聞く」が行われるよう
にしてあります。文法事項などを活用して
本文と向き合い、などを解くかのように本
文を読み込む空間が作れば授業が活性化
すると思います。今回はジグソー法を取り
入れています。ジグソー法と考えると難し
い問いや、様々な資料の準備などが必要だ
と思いがちですが、教科書脚注の問いや教
材末の学習のポイントを活用することで、
本文の理解を深める課題が作成できます。
あまり難しく考えずに、日常の授業実践の
延長線上にジグソー法を位置付けて取り組
んでみると意外と手軽にできるとしま
す。

伊勢物語 芥川

(組) (番 氏名)

今日やると

Q. 歴が近い人たでグループを作る。机はつづけず、そのまの座席をそのままの役割を定める。

1. 自由に初めに課題を個人でやる。(向線なし)

課題①: 本文の助動詞(傍線部分)の補正、意味(活用形)を記入しなす。

課題②: 教科書を見ながら、本文の右側現代語訳を書きなす。

課題③: 本文の問いに答えを出しなす。

2. 同じ課題に取り組んでいる人たちを集めて課題①②③の答えを出す。

3. 最初のグループになって、それぞれの課題の答えを共有する。そのうえで、問1、2に取り組む。

A 昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、

年を経てよほむわりけるを、からうじて盗み出でて、

いと暗きに来けり。芥川といふ川を率て行きければ

草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」と名を男に問ひける。

問 「かれは何」と
いまどのような書
きかたか

B ゆく先多く、夜もふげにければ、鬼ある所を知らず、

ゆきへいとみじう鳴り、雨をいたう降りければ、あはなる威に、

女をば奥に押し入れて、男、弓・胡蝶を負ひて戸口ををり、

はや夜も明けなむと思ひつゝあたりけるた。

鬼はや一口に食ひてけり。

「あなや」と言ひけれど、

問 「あなや」とい
たのは誰か。

C 神鳴る響きに、え聞かざりけり。

やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。

足ずりをして泣けども、かひなし。

白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを

問 「消えなましもの

を」には、男のどの

ような思ひか込みの

れしのか。

問1 絵のそれぞれの場面は、本文のどの部分に当たるのか。

問2 教科書P100「最後の部分」を読み、この最後の部分を読み、この文章の中でどのような働きをしていて、かか
きかたか。

▲ワークシート

より良い話し手・聞き手を育てるために

ぬりたよしえ
塗田佳枝

筑波大学附属坂戸高等学校



■はじめに

勤務校の調査によると、昨年度の本校生のスマートフォン所有率は九七パーセントだった。使用目的は交流や娯楽が中心だが、授業の調べ物に使う生徒も多い。またパワーポイントを用いた発表は多くの学校で行われており、今の生徒は総じてICT機器を抵抗なく使っていると見えそうである。

「話すこと・聞くこと」の指導は、その必要性が長年叫ばれてきながらも「読むこと」「書くこと」に比べて十分に行われているとは言いがたい。それは、適切な教材の少なさや、音声言語の特徴である再現性の弱さからくる学習活動や指導の難しさによると思われる。しかしICT機器を使用することで、その難しさをいくらか軽減すること

ができる。本稿では、「話すこと・聞くこと」の指導におけるICT機器の使いかたについて考えてみたい。

■ICT機器を用いた「話すこと・聞くこと」の実践

本校の学校設定科目の一つに「言語コミュニケーション」(三年次・二単位)がある。主に音声言語を扱い、場に応じた円滑なコミュニケーション能力を身につけさせることを目標としている。表現効果の吟味、表現の特色や言語の役割の理解という点では、「国語表現」に近い科目と言える。本科目で考えてみると、ICT機器の使いかたは以下の三つに分けられる。

- (1) 活動のツール
- (2) 可視(可聴)化の手段
- (3) 共有の効果高める

以下ではこの三点に従って、「話すこと・聞くこと」の授業案をいくつか紹介したい。なおこれらは全て実践したわけではなく、想定される方法も含んでいる。

(1) 活動のツールとして

まず、話す素材の作成や動機づけのためにICT機器を使う例である。人を引きつける表現を考えさせる目的で、「学校のイメージ広告を作ろう」という単元(全十三時間)を二学期の中心に置いた。学習の流れは以下の通りである。

- ① 新聞広告・テレビCMを分析し、広告の構成要素について知る(四時間)
- ② グループあるいは個人でイメージ広告を作成する(六時間)
- ③ 作品発表会を開く(三時間)

導入にあたる①では、実際の新聞広告やテレビCMを使った。CMはプロジェクトタ1で映してクラス全体に見せ、制作者の意図や表現効果について考えさせた。

②の段階では、動画作成アプリや文書作成ソフトを使って広告を作成させた。今は便利なアプリが無料で手に入る。インターネット上にはそのアプリの使いかたを画像入りで分かりやすく説明しているサイトもあり、それを読めば初心者でも何とか使うことができる。今回初めて動画作成に取り組む生徒もいたが、説明サイトを参考にしながら楽しんで制作していた。完成作品は、学校説明会に来校した中学生と保護者に向けて掲示・上映した。

③の作品発表会では、作品を見せながら五分程度で制作意図を発表させた。説明する場合、動画なら繰り返しや一時停止、文

書ファイルなら拡大など、視覚情報をいかに使うかにも気を配らなければならない。グループ発表であれば、発表内容の共有と分担も必要である。本校の生徒はパワーポイントでの発表には慣れているが、自らの作品を使って分かりやすく説明するという今回の発表会では苦戦する者も見られた。今回の発表会では苦戦する者も見られた。発表・説明の形態は一つではない。よってカリキュラムを作成する際には、様々な形態を取り入れる必要がある。

(2) 可視(可聴)化の手段として

音声言語は発話内容が一瞬で消えてしまうため、本人が覚えていなかったり意識さえしていなかったりすることがある。また聞く側も一度で全てを理解するのは難しい。そこで使えるのが、録画・録音ができるスマートフォンやタブレットである。

推薦入試を控えた九月に「話し合いを円滑に進めるために」という単元を二時間で実施した。選択型(二者択一・優先順位)

と自由討論型(定義・意味づけ)のテーマをグループに振り分け、話し合う一グループの周囲を他の三グループが囲むフィッシュ・ボウル形式で観察させた。時間は十分程度とし、一テーマが終わるたびに実演班と観察班が気づいたことを発表する形でふりかえりを行った。しかし記録しきれなかったり、大勢の観察者がいる緊張から思うように話せなかったりする生徒がいた。

夏休み明けのウォーミングアップに軽い単元を用意したつもりだったが、生徒にとっては印象に残ったようである。年度末のふりかえりでは、「一人で話しすぎる癖に気づいた」「集団討論の評価のポイントや司会のしかたが分かった」ともつと時間をかけてほしい」などの記述が見られた。

この単元を改良するならば、タブレットで録画し、ふりかえりを踏まえた上でもう一度話し合いに取り組ませたい。グループの台数分のタブレットがあれば、グループ全員で見直して分析できるし、一回目と二回目の様子を比較して変化を見ることもできる。

次は、インタビューにスマートフォンの

録音機能を使用した実践である。筆者が本科目を担当する場合は、年度当初に約十時間をかけて「聞くこと」に関する単元を実施している。コミュニケーションにおける聞き手の重要性に気づかせるためである。今回の単元は以下のように構成した。

- ①「聞く」ために必要なことを考える (四時間)
- ②インタビュ記事から良いインタビュアーの条件を考える (二時間)
- ③二人一組で二十分前後のインタビュールを行い、インタビュアーの魅力伝える文章としてまとめる (四時間)
- ④インタビュ集を鑑賞する (一時間)

最初に、質問を数多く考えるゲームや質問の分析を行った。「傾聴のレッスン」や「伝言リレー」等のミニゲームは普段の聞く態度や伝わり方を省みる上で効果がある。生徒会役員の生徒は、口頭だけの説明がいかにも伝わっていないかにショックを受け、メモ書き程度でも文字は必要と認識を新たにしていた。

インタビュ集の原稿は、製本の都合上、

A4用紙一枚という制限をつけた。インタビュ内容から必要なことを選び、構成する作業に二時間を充てたが、生徒たちは録音を何度か聞き直してまとめていた。その過程は「質問攻めにしてしまった」「インタビュアーの話を逃していた」など、自分の聞きかたをふりかえる機会にもなっていたようである。

今回は行わなかったが、自らのインタビュを分析することもできる。まず個人で上手にできた点・うまくいかなかった点を出し、グループで改善策を考える活動を設定すれば、インタビュアーが深まる質問のしかたを学ばせることができるだろう。

(3) 共有の効果をも高めるために

手書きの制作物をグループで批評し合っ代表作を選び、選定理由をクラス全体に発表するという活動は、国語の教室で一般的に行われている。この場合、作品を全員で見られず、聞くだけになることが多い。そこでタブレットで撮影し、プロジェクトで映しながら発表させることに取り組んでみたい。必要に応じて拡大すれば全員が見られるし、質疑応答も入れやすい。

(2)で述べた話し合いやインタビュのふりかえりも、自分(のグループ)だけでなく他者の分析を、データを視聴しながら聞くことができれば、より効果が見込めるだろう。このように今・この場所で見えるのはICT機器の大きな利点である。

■おわりに

「話すこと・聞くこと」の授業にICT機器を取り入れることで、生の素材や自らの発話を教材としたり、様々な形態の表現活動に取り組ませたりすることが可能になる。ただ、機器を使えば授業が活性化するというわけではない。授業を構想する上では、「話す(聞く)べきこと」「話し(聞き)たくなること」を用意することが一番のポイントであると考ええる。

先述の通り、音声言語は形が残らない。そして第一言語の場合、皆がそれなりに話し、聞くことができる(と思っている)。だからこそ「話すこと・聞くこと」の授業では、より良い話し手・聞き手になるように意識させる必要がある。そのためにICT機器を上手に使っていききたい。

中学校 ×「話す・聞く」授業活性化のアイデア

中学と高校をつなぐ

いしなべゆうだい
石鍋雄大
東京都立大泉高等学校・附属中学校



■はじめに

新学習指導要領の「現代の国語」において、「話すこと・聞くこと」の配当時間が「20時間〜30時間」と明示された。また、大入試ではAO入試や推薦入試の拡大が行われ、社会からはグローバル社会の一員として自身の主張を述べる力が求められる。 「話す・聞く」力を育てることは、高等学校の現場において、重要と考えられてきたが、学校内外に必要な力として明確に表面化されたといえる。

■「話す・聞く」授業と生徒

教室内における「話す・聞く」活動自体は教員の意識の有無にかかわらず中学校・高等学校ともに行われている。日々の授業

におけるペアでの相談や話し合い活動、発表などである。特に中学校では頻繁に行われ、国語科だけでなく、他教科でも多くペアや班での活動が行われているのを目にする。これら日常的に行われる教科での話し合い活動に加えて、行事や学期の区切りに行われる発表会や日本語・英語のスピーチ大会など、生徒は教育活動としての「話す・聞く」活動を繰り返している。

しかし、これらの活動にもかかわらず、高等学校の教員としては高校入学時の生徒の能力には大きなばらつきを感じる。違う中学校で、違う教科書を使用した、地域や家庭によって生活環境も違う生徒たちは、同じ高校に同じ年度に入学したとしても、当然能力に差がある。

■提案「話し合いをメタ認知する」授業

そこで、生徒の「話す・聞く」能力を具体的に把握することが必要であると考えた。ここでは、特に「話し合い」について提案したい。生徒の話し合いの能力把握は日々教員が行っていることであるが、実際に自分のことを振り返ると、各人の発話が円滑である、協力してできている、全員が同じ程度話をしていて等、実態把握は生徒の意欲や態度にとどまり、話し合いの能力について具体的には把握できていないことに気がついた。

このことは、生徒も同じではないだろうか。生徒にとって話し合いは、楽しく、新しい意見を知ることができ、元の意見から変容が起りやすいため、うまくいっている

資料②

1 自分たちの話の文字化資料を見て、教師1を埋めてください。

発話者	()	()	()	()	発話者
発話数	さん	さん	さん	さん	発話数
質問数					質問数
MVP					MVP
MVPの理由					MVPの理由

2 自分たちの話の文字化資料を見て、話し手も話し手も埋めてください。

発話名	発話例	自分の数	最大値
展開	…について話そうか	0	さん
整理	ちよつとまとめるね／つまり…	0	さん
逸脱の修正	きっきの話だけど…	0	さん
発話の促し	〇〇さんはどう？	0	さん
反論	でも…／それは…じやない？	0	さん
質問	なんで？	0	さん
確認	どういうこと？	0	さん
受容	そうだね。	0	さん
提案	…はどう？／じゃあ…	0	さん
理由づけ	だって、／…だから	0	さん
補足	それに…／しかも…	0	さん
言い換え	それって…だよ	0	さん
あいづち	うん／なるほど／たしかに	0	さん
ユーモア	-	0	さん

3 自分たちの話の話し手1方の特徴はどのくらいか

【第二次】 話し合いでは、発話量の多さや、答えに直接結びつく発言をすることだけが成功の要素ではない。機械的に同じ能力を求めるのではなく、話し合いの目的を理解し、そこにむかって協働し各人が役割を果たすことが大切である。以上のことを教員が理解した上で生徒の個性に応じて指導することが大切である。

実際の授業で生徒は、発話の流れや発言内容の偏り、班ごとの特徴について考えることができた。実際に数字や視覚的に分かる形で示されたことで分析は効果的に進んだようである。文字化して分析することで話し合いを多角的に振り返ることができたが、発話量や流れを簡易的に認識させる方法として、会話を生

徒から次に会話をした生徒へと、毛糸玉をどんどん渡していきながら糸を伸ばし、やりとりを可視化するような実践もある。

■おわりに

大切なのはここで把握した能力を元に、教師が授業を進めること、生徒が能力を向上しようとすることである。

社会の潮流に伴い、学校や授業が大きく変化しようとしている。変化の途上、またこれからの社会において「話し合い」は問題解決や思考の共有の重要な手段である。話し合いの力を把握し、見直し、向上させ続けるために、定期的に話し合い方を考える授業を行っていききたい。

【主要参考文献】

日本国語教育学会監修『話す・聞く』（東洋館出版 二〇一七）

国語教育探究の会『文字化資料・ふりかえり活動でつくる 小学校国語科「話し合い」の授業（明治図書、二〇一八）

松本修『読みの交流を促す（問い）の5つの要件の検討：教材「庭の一部」の話し合いに基づいて』（『国語科教育』、八四一九一、二〇二一）

資料②

ように感じるが、なぜうまくいったのか、どうしたら話し合いはよりよく進むのかといった方略に関して考えたことは少ないのではないかと。

以上のことから、話し合いについて教師に加え、生徒自身にもその進め方・方略を考えさせるような「話し合いのメタ認知」を目的とした授業を提案する。

■授業について

本授業案は都立大泉高等学校二年生を対象とし、三好健介主任教諭とともに進められた実践を元にしたものである。生徒自身に話し合いをメタ認知させ、自分たちの発話内容や、それが話し合いの中でもたらす意義について考えさせ、今後の授業・生活での自身の話し合いに活かすことを目標とした。

○目標 「現代の国語」A話すこと 聞くこと (1) 指導事項

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

○言語活動 同 (2) 言語活動例

ウ 話し合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にしながら行う活動。

○単元計画

【第一次】(二時間目)話し合いを行う

- 単元の目標を理解し、授業の見通しをもつ。
- 北原白秋「庭の一部」を一部空欄にしたもの(資料①)を読み、プリント空欄に入る言葉とその理由を書く。
- 四人班になり、空欄に入る言葉について話し合う。
- その際、話し合いを各自携帯電話で録音する。

【第二次】(二・三時間目)話し合いを分析する

- 録音した言葉を文字起こす。
- 文字起こし原稿をワークシート(資料②)に基づいて分析する。
- 班ごとに話し合いの特徴を発表する。
- 自身の話し合い活動について振り返りを行う。

○授業のポイント

【第一次】 本授業の目的は自身の話し合いをメタ認知し、次回以降の授業や生活へ活かすことにある。そのため、生徒自身の実際の会話を素材として用いている。このよう

に自身の話し合いを素材とすることが効果的であると考えるが、携帯電話を授業中に使用することが難しい場合など、雑誌の座談会の文章等について分析することも意義があると考えられる。

また、話し合いの素材としては「庭の一部」を用いた。これは、その後の授業計画として夏目漱石「こころ」で多様な解釈を考えさせるといふものがあったため、同様に多様な解釈が可能な素材を提示している。つけさせたい力や年間指導計画に応じて、協働して課題を解決するのに適した作品を提示するなど、素材の吟味をしてもよいと思われる。

資料①

*空欄には、「郵便が来た。」が入る。

さあ、朝飯だ。
真紅な、ちらちらする、
コスモスの花が三つと、
穂の出たばかりの小さい唐黍、
なんとこの庭の一部の
幽かな、新鮮な秋。
あ、

教科書教材で振り返る「平成」

編集部

■社会を見つめる評論

評論は、社会の問題を取り上げ、それに対する新たな視点を示してくれます。平成の教科書では、どのような評論が掲載されてきたのでしょうか。

たとえば、「人類よ宇宙人になれ」（立花隆、『現代の国語Ⅱ』平成7年）は、温室効果による温暖化など、地球環境の危機について論じています。環境論はほかにも多く、フロンによるオゾン層の破壊を取り上げた「天の穴・地の穴」（立松和平、『現代の国語Ⅰ』平成6年）、「生物多様性」をテーマとした「動的平衡としての生物多様性」（福岡伸一、『精選国語総合新訂版』平成29年）などが掲載されています。

そのほか、現代をアイデンティティ不定の時代ととらえた「大人への条件」（小浜逸郎、『精選現代文』平成16年）、「クロン羊」

などについて論じ、現代を「無痛文明」ととらえた「生命倫理が変わる」（森岡正博『新編現代文』平成16年）、キティちゃんやポケモンなど、日本文化における「[KAWAII]を論じた」「かわいい」現象」（四方田犬彦、『現代文2』平成21年）など、世相を反映した多様な評論が登場しています。

■情報社会を生きる

さまざまなテクノロジが花開いた平成は、「情報の時代」といえるかもしれません。すでに、平成6年使用開始の『高等学校国語Ⅰ』に、コンピュータやテレビ、ビデオなどの普及する中で書物の役割について考察した「書物を考える」（日野啓三）、情報社会において主体的に生きるすべを説いた「文化と反情報」（山口昌男）といった評論が掲載されています。

それ以降の教科書でも、電車の中で「書く人（携帯電話でメールを打つ人）」が現れたということから、文字と身体について論じた「知識の扉」（港千尋、『国語総合 改訂版』平成19年）、ソーシャルメディアの影響力に言及した「インターネットと人間観の変容」（宇野常寛『現代文B 改訂版 上巻』平成30年）などが掲載されています。

■新しい文学の芽生え

教科書の小説といえば「羅生門」や「ころ」などがすぐに思い浮かびますが、平成に入って活躍をはじめた作家の作品も数多く収録されています。

たとえば、平成の芥川賞受賞者で見ると、小川洋子さん（平成2年受賞、「アンジェリーナ」『現代文1』平成16年）や川上弘美さん（同8年、「離さない」『現代文2』平成17年）、お笑い芸人でもある又吉直樹さん（同27年、「祖母が笑うということ（エッセイ）」『新編現代文B 改訂版』平成30年）などの作品が掲載されています。

直木賞受賞者は、浅田次郎さん（平成9年受賞、「鉄道員」『新編現代文』平成16年）、重

松清さん（同12年、「バスに乗って」『新編国語総合』平成25年）、石田衣良さん（同15年、「迷う」力のすばらしさ（エッセイ）『新編現代文B』平成26年）、角田光代さん（同16年、「闇がなければ（エッセイ）」『新編現代文B』平成26年）などです。

■こんな人も教科書に：

教科書に掲載されている筆者は、評論家や文学者だけではなくありません。その時代において、華々しい活躍をした人々の文章も掲載されました。

平成の教科書においては、日本人宇宙飛行士として話題となった毛利衛さん（二十八年後の皆既日食）『新編現代文Ⅰ』平成7年や野口聡一さん（ワンダフル・ブラネット）『新編国語総合』平成25年）、脚本家の三谷幸喜さん（俺はその夜多くのことを学んだ）『新編国語総合』平成15年）、前人未到の七冠を達成した将棋の羽生善治さん（「未来を切り開く力」『国語総合 改訂版』平成19年）など、さまざまな分野の第一人者が紙面を賑わわしてきました。次の時代にはどんな方々が登場するのでしょうか。

「平成」も残すところあとわずか。この30年の社会の変容を、国語教科書は映し出してきました。教科書教材から「平成」を振り返ります。

■平成の学習指導要領（新課程実施年）と科目

昭和57年 （平成元年）	★新課程高校実施 ◎国語Ⅰ／国語Ⅱ／ 国語表現／現代文／ 古典		【高等学校 国語Ⅰ 四訂版】
平成6年	★新課程高校実施 ◎国語Ⅰ／国語Ⅱ／ 国語表現／現代文／ 現代語／古典Ⅰ／ 古典Ⅱ／古典講読		【高等学校 新現代文】
平成15年	★新課程高校実施 ◎国語表現Ⅰ／ 国語表現Ⅱ／ ◎国語総合／現代文／ 古典／古典講読		【国語総合】
平成25年	★新課程高校実施 ◎国語総合／国語表現 現代文A／現代文B 古典A／古典B		【新編国語総合】

◎…必修 ○…選択必修

*（ ）で示した教材・教科書名は、すべて大修館書店の教材・教科書名（初出）です。あわせて付した年号は、教科書の使用開始年を示しています。

時代の中の個人主義——「私の個人主義」

いしはらちあき
石原千秋
早稲田大学教授

時代の制約の中で

現代の日本において実質的に言論の自由が保障されていると感じるおめでたい人はいないと思うが、それでも憲法上は言論の自由は保障されている。漱石は法律上でも実質的にも言論の自由のない時代に作家として生きなければならなかった。その時代を、漱石はしたたかに生き抜いた。

「私の個人主義」という講演は、大正三年に学習院で行われた。前半が「自分は「自己本位」という立場から英文学研究を行ってきたが、みなさんも「自己本位」をつかみなさい」という若い人へのアドバースとなっていて、この部分が教材の中心だった。後半は「みなさんは将来権力と金力を持つことになるけれども、それで得られる自由と同じように他人の自由も尊重しなければならぬし、権力と金力に伴う義務を果たさなければならぬ」と教訓する構成になっている。漱石が人格と義務とをワンセット

チェックし、「ああいう個人主義ならいい」と判断したという逸話が残っている。漱石の予防線が利いたのである。

漱石のエクスキューズ

こういう時代だから、漱石の批判の仕方もう手が込んでいる。講演の後半ではこう語っている。

近頃自我とか自覚とか唱えていくら自分の勝手な真似をしても構わないという符牒に使うようですが、その中にははなはだ怪しいのがたくさんあります。(中略) いやしくも公平の眼を具し正義の観念をもつ以上は、自分の幸福のために自分の個性を発展していくと同時に、その自由を他にも与えなければなりませんことだと私は信じて疑わないのです。われわれは他が自己の幸福のために、己の個性を勝手に発展するのを、相当の理由なくして妨害してはならないのである。私はなぜここに妨害という字を使うかというと、あなたがたは正しく妨害しうる地位に将来立つ人が多いからです。あなたがたのうちには権力を用い得る人があり、また金力を用

で語るのには、人格と道徳とをワンセットでとらえる、当時の日本では朱子学にもなぞらえられた、イギリス流の「自我実現説」を身につけていたからかもしれないが(日比嘉高『自己表象』の文学史) 翰林書房)、それだけではなさそうだと。

言うまでもなく、学習院は華族の通う学校で、多くは東京帝国大学に進学した。もともと社会の上流階級(こういう言葉がよく使われた)に属する人々が、さらに最高の学歴を得るための学校だった。こうした特異な学校の性格が、この講演後半の権力や金力をむやみに振り回すなという忠告になっている。漱石が権力や金力を生理的に嫌悪していたのは事実のようだが、全体としてはその嫌悪よりも、義務を強調するいかにも学校的な教訓に満ちた論調になっている。それは個人主義を説くための漱石なりの予防線だった。当時、個人主義は危険視されていたからで、事実この演題を危惧した学習院は講演を

い得る人がたくさんあるからです。

時代の風に逆らうにはそれなりの工夫が必要だっただろう。漱石は、この後で権力や金力には義務が伴うと言いながら、イギリスは好かないけれども、反政府的な運動も弾圧されないと強調している。さらには「国家的道徳というものは個人的道徳に比べると、ずっと段の低いもの」で「詐欺をやる、ごまかしをやる、ペテンにかける、めっちゃくちゃなもの」とまで言う。その少し前にはこういう一節が入る。

いやしくも人格のある以上、それを踏み違えて、国家の亡びるか亡びないかという場合に、疇違いをしたただむやみに個性の発展ばかりめがけている人はいはずです。私のいう個人主義のうちには、火事が済んでもまだ火事頭巾が必要だといって、用もないのに窮屈がる人に対する忠告も含まれていると考えて下さい。

前半はエクスキューズである。しかし、後半はまぢがいなく国家主義者への批判である。エクスキューズと見せて批判する。これを学習院という場で語っ

たことの意味を考えればどちらが本音だかわからうというものだが、これだけ慎重でなければならなかったのも事実だ。

「私の個人主義」という講演は、こうした厳しい時代と場の意味を考慮せずに、漱石のエクスキューズをこの講演の主旨だと「誤読」して、教育や社会のなかに引き継がれていたのではないだろうか。「自由や権利には義務が伴う」と。少し前なら、校長や社長の訓辞でよく使われたフレーズである。批評家なら、いまでも「個人の自由は他者とともにある」とかなんとか、もつともらしく説いている。どれだけ自由主義者の顔をして、その心は同じだ。

では、私たちはこの講演から何を学べばいいのだろうか。

自己本位は伝わらない

漱石は、イギリスで英文学研究をしようにも手本がなくて、「この時私は始めて文学とはどんなものであるか、その概念を根本的に自力で作りに上げるよりほかに、私を救う途はないのだと悟」り、科学や哲学に手がかりを見いだそうとしたのを「自己本位」だと言っている。

柄谷行人『探求Ⅰ』（講談社）は、全編を挙げて教育とは何かを問うている。無理矢理短くまとめるなら、こうだろう。商品が売れるのは「命がけの跳躍」とマルクスが言ったのは、商品に価値があるから売れたのではなく、売れたことによって事後的に価値があると判断されるからだ。言葉が通じるのも、意味があるから通じたのではなく、通じたから意味があったと事後的に判断されるにすぎない。言葉が通じることも商品と同じように、「命がけの跳躍」の結果である。その証拠に、言葉が通じるために必要な言語のルール（ラング）をきちんと説明できる者などいない。

教育もまったく同様で、たとえば教訓に価値があるから教えることができたのではなく、相手がわかったから教訓に価値があったと事後的に判断されるにすぎない。つまり、商品の価値は買い手が決め、言葉の意味は聴き手が決め、教育の成立は生徒が決めるのである。しかし、それが伝わるかどうかは生徒次第だ。

私は教員になってもう三六年になるが、いまだにわからないことがある。教育の根本である。私は大学一年生には半期（実質三ヶ月）の授業で四千字程

科学や哲学に対する信頼がややナイーブすぎるのはさておき、当時、現代英文学研究など世界のどこにもなかった。そもそも、英文学科が大学にあったのは、スコットランド、インド、アメリカの一部、そして日本だけである。これを見ておわかりだろうが、いずれもイングランドの高級な文化によって教化する必要があると思われる国や地域である。いかにも植民地経営的な発想だ。日本では富国強兵の一環だったから、漱石の留学の課題は「英語研究」であって「英文学研究」でさえなかった。やや極端に言えば、漱石は世界ではじめて現代英文学研究を作り上げなければならなかったのだ。漱石の「自己本位」の覚悟と強度は生半可なものではなかった。漱石が自分の場所を見つけるまでとことん突き進みなさいと、異様なまでに「自己本位」を強調する理由もそこにある。

しかし、漱石はそれは伝わりはしないと、半ば諦めながら語っていたのではないだろうか。漱石の講演はどれも前置きが長い。「私の個人主義」でも、彼自身が教師になるまでの経緯を話し、しかも自分は教師の資格がないとも語っている。これは単なる謙遜だろうか。

度のレポートを三回課す。「叱る権利をもつ先生はすなわち教える義務」も持つから、すべて「」の位置に至るまで細かく添削して、対話をしながら返却する。それで形式上のルールを覚えるのは当たり前だ。しかし、二十点か三十点しか取れなかった学生が（そういう点を平気で付ける）、三回目に突然九十点に値するようなレポートがなぜ書けるようになるのか、それがいまだにわからないのだ。

武者小路実篤『友情』を三ヶ月一緒に読んでいてさえこうなのだ。ましてや「自己本位」を手に入れた学生など理解のしようがないと思う。今日の話がわからなかったら質問に来なさいと言う漱石は、伝わりと信じていたようにも見えない。しかし、それならどうして教師の資格はないと言うのだろうか。伝わりとわかっていることだけを教えるのは教育ではない。漱石が言いたかったのは、伝わるかもしれないし、伝わらないかもしれないが、それでも「自己本位」から「命がけの跳躍」をするしかないということだけだったのではないだろうか。それが個人主義というものだから「淋しい」のだ。その淋しさに耐えなければならぬのは教師である。「私の個人主義」から学ぶのは教師でなければならない。

いさめられても、叱らないで

関根 健一
せきね けんいち

●読売新聞東京本社編集委員。日本新聞協会用語懇談会委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なせなに日本語」(三省堂)、「ちびまる子ちゃん」の敬語教室(集英社)など。

上司は部下をいさめてはいけません——最近の若者は傷つきやすいから、ではなく、「いさめる」は部下から上司へ向けられる行為だからです。

古くは「神のいさむる道」(伊勢物語)など、禁止を表す例もあり、この場合には「下から上へ」の方向性は含まれてはいません。ただ、指摘して改めさせる意味では、目上の人(上位者)の欠点・悪事を見かね、目下の人(下位者)が意を決して口を開くといったときに多く使われ、「諫」の字が当てられてきました。「家に諫むる子あればその家必ず正し」(平家物語)は、父・平清盛の横暴な行動に苦悩する重盛を評した一節です。熟語「諫言」「諫死」「諫止」のイメージも相まって、「畏れ多いけれど勇気を出して」「不利益を被ることを恐れずに」といった熱い思いを感じるという人もい

るのでは。最近のニュースでは「首相をいさめる議員がいないのは問題」「抗議の意味合いから辞任を決意した国防長官が大統領をいさめる」といった使用例がありました。

目下の人に向かって発するなら「叱る」です。「店長が働かない店員を」「監督が練習しない選手を」だったら、遠慮しないで叱りとばせばいいのです。「いやあ、このご時世、そうもいかないからなあ」——ごもっとも、「長」の肩書はあれど何の権威もない、部下の方が実力者、といった状況はありがちですね。「上から下をいさめる」用法の背景には、そんな実情があるのかもしれない。たいていの国語辞典は「多く(主に)目上の人に」として、目下にも用いることを許容する余地を残しています。とはいえ、あまり使用

範囲を広げるのもいかなるものでしょうか。

*
もっとも、「叱る」の威圧感も気になるところです。穏やかに注意するのであれば「たしなめる」ではどうですか。こんなことをしてはいけないよと教えておきたいときは「いさめろ」がいいかもしれません。しでかしそうな失敗を予測して、前もって念を押しておくなら「釘を刺す」です。となると、下位者から上位者に向かって言うときは、これらの表現はあまりふさわしくないといいうこととなります。「五歳児のチコちゃんに叱られちゃってさ」のような言い方が、何となくユーモラスに感じられるのは、本来の用法から少しずれているからなのでしょう。

*
辞書を引いても、上下関係にかかわるかどうかが、分かりにくいこともあります。ただ、「たしなめる」は「軽く叱る」と語釈を付けているものが多く、「叱る」の一種と解釈できます。「明鏡国語辞典 第二版」は「いさめろ」について「生徒のいたずらを」などの用例を挙げています。「乱暴な口

を利いてたしなめられる」「他言するなど釘を刺す」(同)の用例からは、たしなめられ・釘を刺されているのは同輩以下であるのが、自然な情景として浮かんできませんか。

*
「上から下へ」「下から上へ」の方向性が潜む言葉の存在は、かつて社会が厳格な上下関係に基づいて成り立っていたことの名残でしょうか。互いに配慮し合う平等な世の中になったのだから、そんな方向性など気にせず、自由に使えばいいようなものですが、長年にわたって染みついたニュアンスは簡単には落とせません。

文化庁の「国語に関する世論調査」(二〇一五年度)では、職場での挨拶として、年代によって目上の人には「お疲れさま」、職階が下の人には「ご苦労さま」と使い分けている傾向もみられました。上か下か、気にする人は気にするのです。年功序列制度が崩れ、働き方も多様化している今、上下関係が曖昧な組織も増えていきます。「意見を言う」「指摘する」など、上下に関係なく使える表現も工夫したいものです。

「古典文法」と「文語文法」はどう違う？

おおくら ひろし
大倉浩
筑波大学教授

第一回では、和歌など口語訳しきれない古典の韻文を読解するには「古典文法」が必要だ（だから学ぶのだ）、と述べました。しかし、それだけ必要な文法なのに、生徒さんも古文の先生も、用語の難しさや活用の暗記に振り回されて、学んでも正直あまり「ありがたみ」が感じられないのは何故なのでしょう。今回はこの理由を、「古典文法」と「文語文法」との違いから考えたいと思います。そこで質問です。

質問 「古典文法」と「文語文法」はどう違う？

名称が違うのですから何か違いはあるはずですが。「文語文法」が昔の名称で、「古典文法」が現在の名称でしょうか？ ハズレではありませんし、そうした認識

を持っている教科書編集者や研究者も少なくありません。ただ、現行（次期も）の学習指導要領では、「文語文法」と呼ばれていて、「古典文法」という呼び方ではありません。しかし、高校の副読本や参考書では、ほとんどが「古典文法」で、タイトルに「文語文法」とある参考書は、ほんのわずかでした。（アマゾンで参考書検索をしたところ、489件対6件でした。）共通部分も多い両者ですが、新旧ではなく、内容にも違いがあるのです。

その一つは、文法が扱う日本語の範囲です。『古事記』『万葉集』などの古文から明治の文章までの日本語の書き言葉、つまり「文語」を対象とするきまりが「文語文法」です。（これに対し、現代の日本語の話し言葉「口語」のきまりが「口語文法」です。）いっぽう、平安時代を中心とした「古典作品」にあらわれた日本

語を対象とするきまりが「古典文法」、という対象の違いです。対象とする範囲が「文語文法」のほうが広く長いと言えそうです。例えば、「係り結び」という

文法のきまりは、文語でも平安時代の古典作品でも守られていますから、両方の文法で扱います。しかし、形容詞の活用について見ると、「文語文法」では「良く・ば、悪しく・ば」のような仮定の言い方が、江戸・明治時代の文語にあるので、未然形に「く・しく」を認めます。いっぽう「古典文法」は、平安時代では「良く・は、悪しく・は」という「連用形＋は（係助詞）」の用法であったので、形容詞未然形に「く・しく」は無く、「から・しから」しか示しません。副読本によつては、活用表の未然形の枠内に、（く）（しく）のようにカッコをつけて示し、注記するものもあります。

二つ目は、学ぶ目的です。「文語文法」は、文語を讀んで書くために学ぶ規範文法です。「古典文法」は、前回述べたように古典作品を讀解するため（生徒自身で品詞分解をして古語辞典を引けるようにするため）に学ぶ記述文法で、生徒が文語文を書いたり、文語で短歌や俳句を作ったりすることを目的にはしていません。解釈に使っても、表現には使わない、いわば片道

キップの文法なのです。

特にこの第二の違いが、教室での「古典文法」を覚えにくく「ありがたみ」を感じにくいものになっているのではないかと、私は思っています。英語の文法grammarだって難しく、暗記することも多いのに、「古典文法」ほど生徒さんに嫌われていないのは、英文読解だけでなく、自分で書いたり話したり、英語で表現して使うためにも必要だからではないでしょうか。現在完了・過去分詞……たくさん覚えることがあっても、使うことがあれば達成感もあります。けれども、「古典文法」はたくさん覚えても、古文を解釈して文法問題を解くばかりです。自分で書いたり話したり、表現に使う場面がまず無いのです。今風にいえば「コスパが悪すぎる」のではないのでしょうか。

もちろん、表現に「古典文法」を有効に使う先生方の試みも様々あり、この『国語教室』でも度々紹介されています。さらに、新指導要領ではこうした表現活動も採り上げられていますから、「古典文法」のあり方も変わっていく可能性があります。このことについては次回以降に述べることにします。

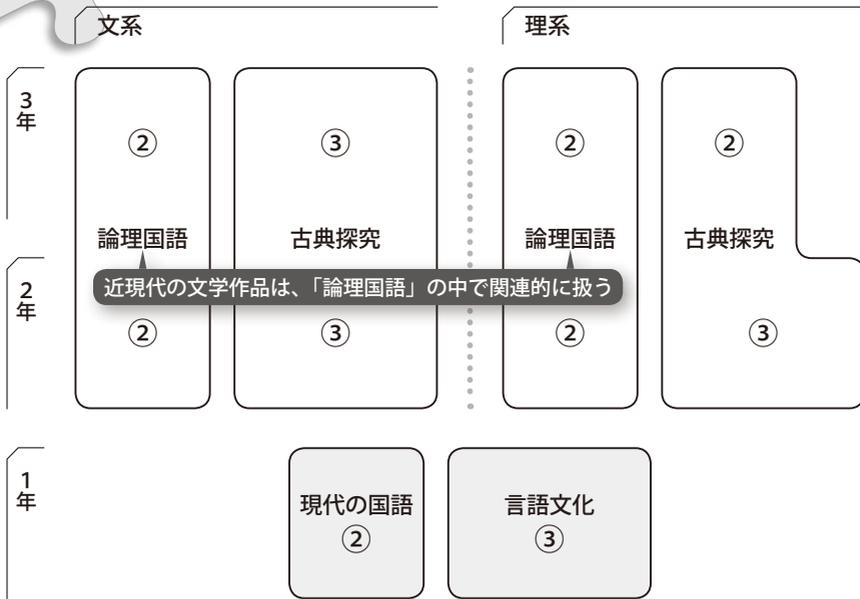


古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/webkoku/>

全日制普通科の例 A



Point 解説 国立・私立難関大学に進学する生徒も多い、進学を重視する学校で想定される一例。

これらの学校では、一年生で「国語総合」を5単位に増単位しているケースが多い。このシミュレーションでも、必修教科目は「現代の国語」2単位、「言語文化」は3単位に増単位して扱うことを想定した。

二、三年生では、現在、「現代文B」「古典B」を履修しているケースが多い。したがって、新課程でも「論理国語」「文学国語」「古典探究」を履修したいところだが、現状の国語科の枠内では時間数の確保が難しい。新テストにおける古典の難易度に鑑みると、まず「古典探究」は履修する学校が多そう。現代文分野については、「論理国語」を優先しつつ、その中で近現代の文学作品も関連的に扱えるように、教科書面での工夫を求める声がかかれた。また、ある学校では、二、三年生で現代文分野を扱う科目として、「論理国語」と「文学国語」を融合的に扱うような学校独自の科目設定を検討しているという。

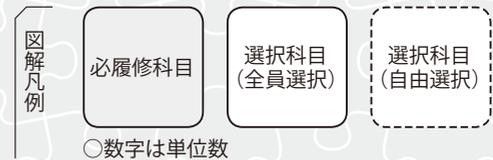
新課程 履習パターン シミュレーション

新学習指導要領の実施が、3年後に迫りました。「教科書に法律の文章が載る?」「文学が減らされる?」などの話題が一般の新聞や雑誌等でも取り上げられ、新学習指導要領は、学校現場のみならず広く社会的な関心事ともなっています。そのような中、新しいカリキュラム編成が始まった学校も多いのではないのでしょうか。新カリキュラムには、どのようなパターンや課題があるのでしょうか。小誌では、学校現場の現状について全国の先生方にお話を伺い、それをふまえて、新課程の履修パターンをシミュレーションしてみました。

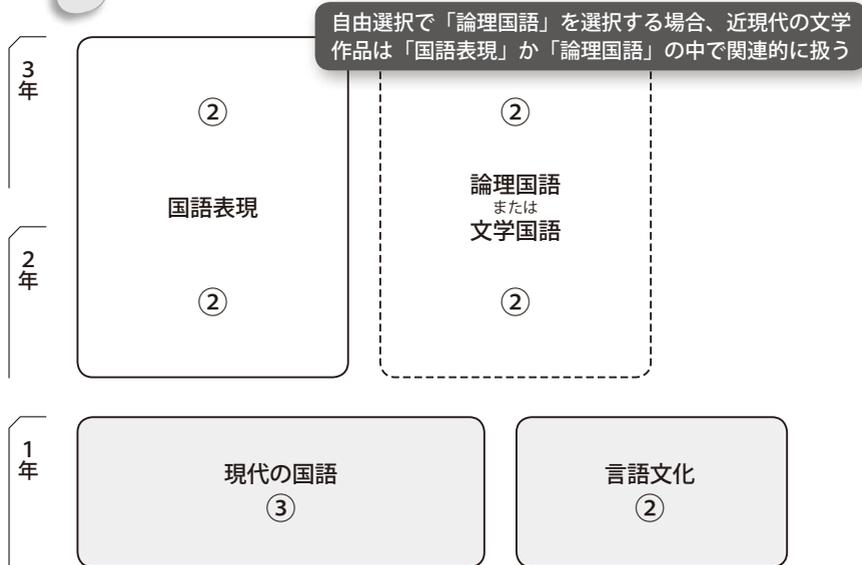
ながたさとみ
監修 ● 永田里美
明星大学准教授

文責 ● 編集部

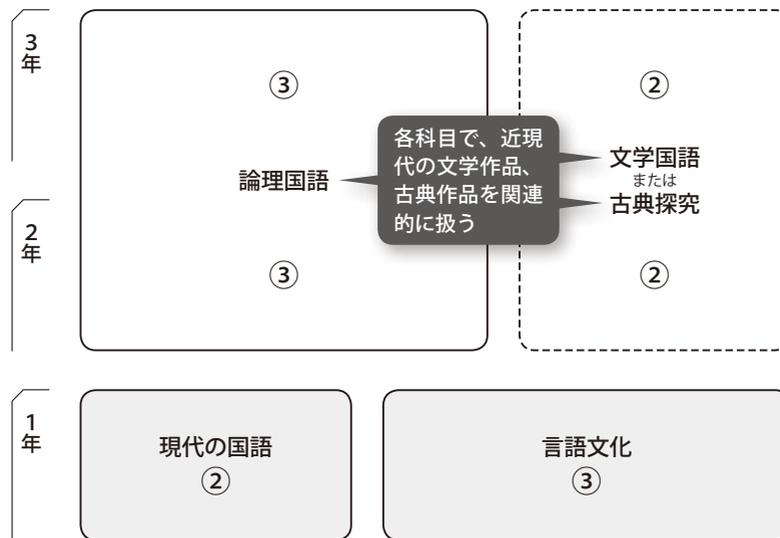
【新科目と標準単位数】		
	科目	標準単位数
必修	現代の国語	②
	言語文化	②
選択	論理国語	④
	文学国語	④
	国語表現	④
	古典探究	④



全日制普通科の例C



全日制普通科の例B



卒業後の進路がさまざまだが、現在、二年生で「現代文」(A・B)のほかに「国語表現」にも重きを置くような学校で想定される一例。

必修科目は、実用的な国語力重視の一つの現れとして、「現代の国語」3単位、「言語文化」2単位での扱いを想定した。標準どおり、各2単位での扱いも考えられる。

二年生では、現行課程に引き続き、新課程でも「国語表現」を扱う可能性が高いと想定される。一方、「現代文」の要素については、これまでに見てきたケース同様、「論理国語」「文学国語」両科目の履修に割り当てる時間を確保することは難しい。その場合、「論理国語」を優先する傾向が強いと思われるものの、やはり近現代の文学作品にも触れさせたいという声は多い。ある学校では、副読本などを用いて「国語表現」に関連させながら近現代の文学作品を扱うことを検討しているという。また、**パターン1**のように、「論理国語」の中で扱う方法を模索している学校も複数あるようだ。

Point解説

卒業後の進路はさまざまだが、私立大学へ進学する生徒も多い学校で想定される一例。

これらの学校でも「国語総合」を5単位の増単位していることが多く、必修科目については**パターン1**と同様の想定とした。

二、三年生では、「現代文B」を二年間で扱い、「古典B」は二年生で全員選択科目とした後、三年生で引き続き全員選択科目にする学校と自由選択科目にする学校に分かれる。

新課程でも、**パターン1**と同じく「論理国語」「文学国語」「古典探究」を履修したいところだが、やはり時間数の確保が課題となる。昨今の私立大学における入試の出題内容に鑑みると、「論理国語」が優先され、「文学国語」「古典探究」は、生徒の実態に応じていずれかを選択することが考えられる。どちらを選択したとしても、相互に関連する近現代の作品と古典作品の比べ読みを積極的に活用するなどして、「文学国語」「古典探究」双方の要素を有機的に関連づけながら扱う工夫を考えたいという声があった。

Point解説



+



明鏡国語辞典 第二版



新漢語林 第二版



新全訳古語辞典

この春登場の
新サービス!

アプリ・動画で
辞書も、便覧も、
もっともっと使える!!

大修館書店



+



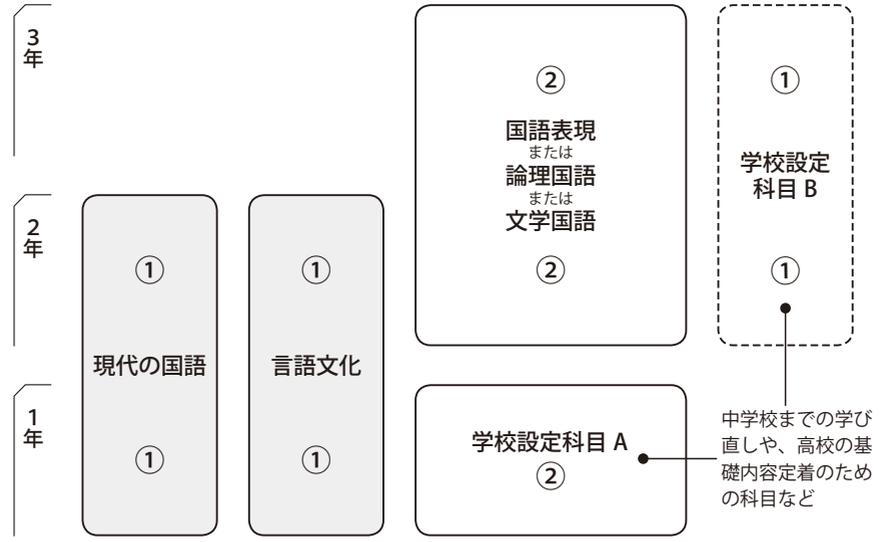
ビジュアルカラー
国語便覧



トータルサポート
新国語便覧

パターン4

全日制実業科の例



Point 解説

国語科に割り当てられる時間数が比較的少ない、専門学科の学校や基礎学力の育成に重きを置く学校で想定される一例。

これらの学校では、一、二年生で学校独自の科目を設定することもあって、必修科目の「国語総合」を二年間にわたって履修するケースが多い。そうした実態をふまえ、このシミュレーションでも、「現代の国語」2単位、「言語文化」2単位を二年間で扱うことを想定した。

二年生からの選択科目については、「古典探究」を選択する学校は少なく、生徒の実態に応じて「論理国語」「文学国語」「国語表現」のいずれかを選択することが想定される。中でも、現行課程に引き続き「国語表現」の優先順位が高い学校が一定程度ありそう。限られた時間数の中で選択科目に優先順位をつけることは難しい。いずれの科目を選択するにせよ、必修科目の「現代の国語」と「言語文化」で培った力をどのように関連的に扱い、発展させるかが鍵になりそう。



便覧とあわせて学びが深まる、動画サイト

まなび動画Navi



*画面は「ビジュアルカラー国語便覧」の「まなび動画Navi」

便覧に挟み込みの「活用ガイド」のQRコードから、簡単アクセス！

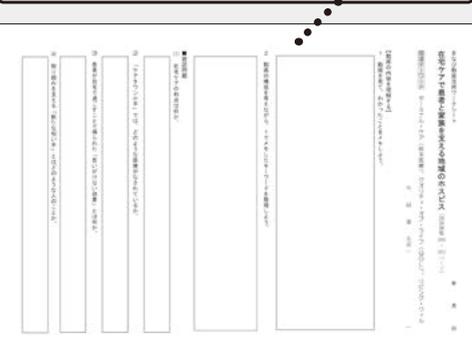


便覧の掲載順に関連動画を紹介。便覧と動画をあわせて活用することで、学びが深まります。

指導用



準拠CD-ROMには、小論文指導や探究型学習、新テストの対策にも使える「まなび動画活用ワークシート」も収録！



辞書の活用をサポートする、無料アプリ

ジショサポ



ジショサポは「動画」と「ドリル」の二本立て！ドリルでは、古文・漢文の重要語やことばの使い方を解説付きで出題しています。

辞書の引き方や古文重要語の解説、校閲クイズなど、楽しみながら知識が身につく動画をご用意しました。



*画面は「明鏡国語辞典 第二版」のドリル

■内容

【古典文学編】

平安京／装束／寝殿造／天橋立／伊勢物語／源氏物語／大鏡／枕草子…

【近現代文学編】

舞姫／夏目漱石／羅生門／川端康成が読む「伊豆の踊子」／高村光太郎…

【漢文編】

漢詩／論語…

【評論編・表現編・言葉の知識編】

接続表現／因果関係…

【小論文のためのテーマとキーワード】

情報化とコミュニケーション／技術の進歩と生命倫理／環境とエネルギー問題…

■内容

『明鏡国語辞典 第二版』

動画 サンキュータツオ校閲室長の「明鏡校閲室へようこそ」

ドリル 明鏡ことばの達人ドリル

『新全訳古語辞典』

動画 ベリタス・アカデミー 阪田健太郎先生の「古文文法・重要語活用講座」

ドリル 例文で覚える重要古語ドリル

『新漢語林 第二版』

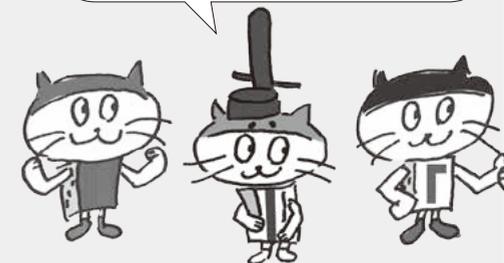
動画 塚田勝郎先生の「『新漢語林』活用講座」

ドリル 例文で覚える漢文重要語ドリル

詳しくは特設サイトをご覧ください！



<https://www.taishukan.co.jp/jishosapo/>





〔WEB国語教室〕運動

重要漢字の総復習

塚田 勝郎
つかた かつろう
元筑波大学附属高等学校教諭

1 句法よりも大切なもの

この連載では既に何度も強調したことです。が、高等学校の漢文学習で最優先されるのは句法・句形ではありません。もちろん句法・句形の学習は無視できません。しかし、漢文学習ではそれよりも優先すべきものがあります。

試みに、次の文章を高校三年生の授業で扱うことを想定してみよう。

齊之国氏大富、宋之向氏大貧。自宋之
齊、請其術。国氏告之曰、吾善為盜。始吾為
盜也、一年而給、二年而足、三年而大壤。
自此以往、施及州閭。

〔以下略〕

〔列子、天瑞〕

それ以後は、恩恵が（私が治める）村里にまで及ぶようになった。」と教えた。〔以下略〕

文章はこの後、向氏が文字通りの「盗」を働き、財産をすべて失ってしまったという記述に続きます。右の引用文は、注釈を見落とすことがなければ、さほど解釈に苦しむようなレベルではありません。特に傍線部「自宋之齊」には平易な漢字が四字並ぶだけで、難解な句法や特殊な慣用表現は見当たりません。それにもかかわらず、この一節の解釈に苦労する生徒が多いためです。なぜでしょうか。

漢文学習で句法よりも優先されるのは、語の意味と語順に関する知識です。「自宋之齊」の一節は、四字の意味と語順に着目しないと正しい読解にはたどりつけないのです。筆者は読解の手順を次のように説明しています。

①注から「齊」と「宋」が国名であることを確認する。
「自宋之齊」のように、印をつけて固有名詞を際立たせてもよい。

②「自」の読みの可能性を列挙する。

——みづから・おのづから……より

③同様に、「之」の読み可能性を列挙する。

——ゆく・これ・この・の

④「自」と「之」の読みを組み合わせて、意味の通じる文にする。

多くの組み合わせができるが、「そうよりせいニゆキ、

〔注〕 齊・宋 Ⅱ いずれも春秋時代の国名。 術 Ⅱ やり方。方法。盗 Ⅱ こっそりと財貨を取り込む。 給 Ⅱ 必要なものが備わる。 壤 Ⅱ 豊かである。「穰」と同じ。 以往 Ⅱ 以後。 施 Ⅱ めぐみ。 州閭 Ⅱ 村里。

〔書き下し文〕 齊の国氏は大いに富み、宋の向氏は大いに貧し。宋より齊に之を請ふ。国氏之に告げて曰はく、「吾善く盗を為す。始め吾が盗を為すや、一年にして給し、二年にして足り、三年にして大いに壤なり。此れより以往、施州閭に及ぶ。」と。〔以下略〕

〔現代語訳〕 齊の国氏の家はたいへんな金持ちで、宋の向氏の家はたいへん貧乏だった。（そこで向氏は）宋から齊に「出かけて行き、（金持ちになる）方法を教えてほしい」と頼んだ。国氏は向氏に、「私はうまくこっそりと財貨を取り込んでいる。最初、こっそりと財貨を取り込んだ時のことをふり返ると、一年で必要なものが備わり、二年目にはそれが十分に行きわたり、三年目にはたいへんな金持ちになった。

以外は、すべて意味の通じない文である。後文に「自此」とあり、「自」が返読されていることも大きなヒントになる。

⑤語法から検証する。

念のために、「宋」という固有名詞の上には副詞の「みづから」「おのづから」は来ないことと、「之」を「これ」「この」「の」と読んだら述語がなくなってしまうことも確認する。

⑥文意から検証する。

確定した読み方が、主語を「向氏」とする後文の「請其術」とも無理なくつながることを確認する。

この手順をみると、漢文訓読はジグソーパズルと似た面を持つことに気づくのではないのでしょうか。「自」と「之」の読みと意味はそれぞれ複数ありますが、この一節で「自」と「之」に相当するピースは、一つずつしかありません。正しいピースの手持ちがなければ、どう工夫してもジグソーパズルは完成しません。漢字の多義性に気づき、一つの漢字の持つ意味を多く知ることが、手持ちのピースを増やすことにつながるのです。

2 漢文読解に役立つ基本一〇〇字

とはいえ、高校生に無制限に漢字の意味を覚えさせるの

〔重要漢字一二〇字〕(代表的な字音による五十音順。*は常用漢字)
 惡(アク・オ) 安(アン) 已(イ) 以(イ) 矣(イ)
 為(イ) 唯(イ) 謂(イ) 一(イツ) 于(ウ)
 亦(エキ) 易(エキ・イ) 焉(エン) 於(オ)
 応(オウ) 可(カ) 何(カ) 蓋(ガイ) 看(カン)
 敢(カン) 還(カン) 願(ガン) 其(キ) 豈(キ)
 幾(キ) 宜(ギ) 況(キョウ) 教(キョウ) 竟(キョウ)
 俱(グ) 偶(グウ) 兮(ケイ) 奚(ケイ) 見(ケン)
 遣(ケン) 乎(コ) 固(コ) 故(コ) 向(コウ)
 肯(コウ) 苟(コウ) 盍(コウ) 忽(コツ) 坐(ザ)
 哉(サイ) 之(シ) 此(シ) 使(シ) 斯(シ)
 而(ジ) 耳(ジ) 自(ジ) 事(ジ) 爾(ジ)
 且(ジャ) 者(ジャ) 邪(ジャ) 若(ジャク)
 須(シュ) 終(シュウ) 從(ジュウ・シヨウ)

縱(ジュウ・シヨウ) 孰(ジュク) 所(シヨ) 諸(シヨ)
 女(ジュ) 如(ジュ) 少(シヨウ) 尚(シヨウ)
 將(シヨウ) 勝(シヨウ) 嘗(シヨウ) 身(シン)
 親(シン) 尽(ジン) 遂(スイ) 誰(スイ)
 雖(スイ) 是(ゼ) 請(セイ) 然(ゼン)
 相(ソウ・シヨウ) 即(ソク) 則(ソク)
 卒(ソツ・シユツ) 多(タ) 乃(ダイ) 当(トウ)
 得(トク) 特(トク) 独(ドク) 難(ナン) 寧(ネイ)
 能(ノウ) 莫(バク) 否(ヒ) 非(ヒ) 被(ヒ)
 必(ヒツ) 不(フ) 夫(フ) 母(ブ) 復(フク)
 弗(フツ) 勿(ブツ) 便(ベン・ピン) 方(ホウ)
 亡(ボウ) 每(マイ) 未(ミ) 無(ム) 也(ヤ)
 耶(ヤ) 又(ユウ) 有(ユウ) 猶(ユウ) 与(ヨ)
 欲(ヨク) 令(レイ) 或(ワク)

は、過重負担を招きかねません。そこで、筆者は重要漢字を基本の一二〇字に絞り、生徒に自学自習を促しています。一二〇字のうち、三分の二にあたる七九字は「常用漢字表」に記載しています。つまり、大多数は高校生なら誰でも読めて書ける漢字なのです。それ以外も、「矣」や「兮」など、ふだん目にしないごく少数のものを除けば、難しい漢字はありません。「漢文は難しい漢字ばかりが並んでい

るから、なじみにくい」という先入観を持っている生徒には、ぜひ伝えたい事実です。また、一二〇字の多くは多義・多訓語です。手持ちのピースをより多くするためにも、これらの漢字を我が物にしておかなければなりません。日常生活では気づきにくい漢字の多様な意味を知ることが、漢文読解の強力な武器となるのです。

しかし残念ながら、授業では基本漢字の習得にあてると間はあまりありません。そこで筆者は、この一二〇字について、基本的な読みと意味、その漢字を含んだ熟語も載せた教材プリントを作成しました。その一部を示しましょう。

漢文読解に役立つ基本一二〇字(抜粋)

【使い方】読めたら、□・◇内を塗りつぶす。

□は重要な読み方、◇はできれば知っておきたいものを示す。読めないものは、漢和辞典で用例を調べておこう。ただし、これを辞典の代わりに使うのはご法度です。

1 悪 アク・オ

- あく⇨わるいこと。「善悪」「諸悪」「賞善罰悪」
- あし⇨正しくない。好ましくない。「悪風」「醜悪」「劣悪」

以下は、音「オ」。

- いづクンゾ(疑問・反語) ⇨どうして…か。
- いづクニカ(疑問・反語) ⇨どこに…か。
- にくム⇨にくく思う。さらう。「憎悪」「好悪」
- ◇ そしル⇨わるくいう。◇ ああ(詠嘆)

※「悪寒(オカン)」は、熱が出て寒気がする(こと)。

(中略)

58 若 ジャク

- ごトシ(比況) ⇨…のようだ。「旁(傍)若無人」

- ※「如」と同じ。
- シク(比較) ⇨及ぶ。…と同等である。※「如」と同じ。
- もシ(仮定) ⇨もし…ならば。※「如」と同じ。
- ◇ なんぢ⇨おまえ。※「女・汝」と同じ。
- ◇ もシクハ⇨あるいは。または。

117 与 ヨ

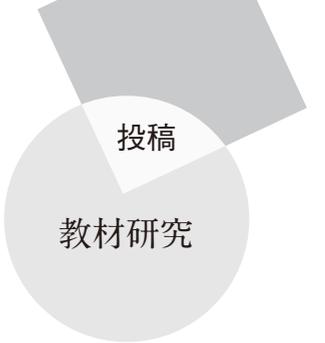
- あたフ⇨あたえる。ほどこす。「与奪」「天与」
- あづカル⇨かかわる。「与知」「関与」
- くみス⇨味方する。仲間になる。「与国」「与党」

※「野党」は、政権を担当していない在野の政党。

- ともニ・ともニス
- …と ※「与」A(Aと)「A与」B(AとBと)の形となる。
- …より…よりハ(比較)
- …や…か(疑問・反語)
- …か…かな(詠嘆)

これだけで漢文読解が楽になることは間違いありません。今回は重要な熟語と慣用句、基本的な語順を取り上げます。

この連載は大修館HP内「WEB国語教室」でも読むことができます。次回は「WEB国語教室」5月頃アップ予定です。



技術者を目指す学生と「鉄を削る」を読む

きよしま えり
清島 絵利子
岐阜大学准教授

◆はじめに

ある国立の工業高等学校（以後、高専と記す）で勤務していた際、大修館書店『新編現代文B』を用い、三年生の国語の授業を行っていた。高専は五年一貫教育で、日本のものづくりを支える技術者として必要である豊かな教養と体系的な専門知識を身につけることができる学校である。一般科目と専門科目をバランスよく学習できるが、国語に割り当てられる時間は週一コマ（九〇分）と一般的な普通科の高等学校より少ない。しかも、いわゆる理系の学校であるため、国語という教科に苦手意識を持って入学する学生が多い。なかには「国語の授業から逃れるために高専に入学し

◆教材研究の悩み

しかし、筆者への理解は深められても、教材で描かれている肝心の工場の作業風景が頭に入っていないのである。例えば、次の場面などは旋盤で鉄を削った経験がない限り、一読では理解が困難であると思われる。

でも、見習工のわたしは、切れ味を聞きわけるほどの耳を持ち合わせてはいなかった。「どうだ、いい音だろう。音が澄んでいる。」火造ったばかりのバイトは、旋回する鉄の丸棒をシユルンシユルンと削っている。しかし、その音が澄んでいる、というのがわからない。

「機械嫌な音だ。」先輩職人は、満足そうにほほえんで、わたしをふり返った。

私の頭の中では「鉄を削って音が澄んでいるってどういうこと？」しかも、ご嫌みな音ってなに？「こんなん分からん」という言葉が駆け巡り、教材研究を進めてはいても理解に苦しんでいた。「どうしてこの教材を選んだんだろう」と自分自身を責めた

た」と公言する者もいて、着任当初は「国語に興味を持ってもらうには、どのような授業を展開したらよいのだろう」と悩んだものである。高等学校で勤務していた時の同僚からも「高専は理系の学校で、国語に興味がない学生が多いから九〇分の授業を行うのは大変だよ。飽きないように授業をしないと」と聞かされていた。

そこで選んだ教材が、小関智弘「鉄を削る」である。既に定番教材となっている小説や評論文よりも、「技術者（職人）」が主人公の教材であれば、毎日、作業実習を行う高専の学生には共感できる部分や惹かれる部分が多いと考えたからである。その後、教材自体や関連書籍（小関智弘『鉄を

こともあった。しかし本教材で授業を行うことは学生にも予告済で、その日は確実に近づいていた。このような状態で授業が出来るのかと不安が募るばかりで、予習ノートがなかなか埋まらない日々が続いていた。

そこでふと、先輩のアドバイスを思い出した。数年前に関西地方のある進学校での勤務が決まり、先輩に「進学校の生徒に国語を教えられるのかと不安だ」と相談していた時のことだ。先輩は「教員が何でも全部生徒に教えようと思うのではなく、生徒と共に学んで考えることが大切だ。自分が持っている知識や教え方が一番優れていると思っっているのか。それは自己満足ではない。生徒の方が周辺知識やよい意見を持っていることもたくさんある。時には生徒主体で議論を見守るかたちの授業もあっていい。生徒より教員が優れていると思ったらあかん」と教えてくださった。

この話を思い出すまでは、全て自分の頭に教材の内容や周辺知識を完璧に叩き込んで、授業に臨もうと考えていたことに気が付いた。自分も含め、教員はとかく、生徒

削る一町工場の技術」を何度も熟読し、教材研究に励む日々が続いた。同書籍は本教材の原典であり、筆者の四十九年にわたる旋盤工としての歩みや知識と経験に基づいた確かな技術と職人気質が描かれている。筆者である小関氏は高等学校卒業後、東京都大田区周辺の町工場で旋盤工として勤務しながら小説等の執筆活動を行い、直木賞、芥川賞にノミネートされる実力のある作家でもある。日々ものづくりに携わる技術者（旋盤工）が作家としても活躍するという異色の優れた経歴は、技術者を目指す高専の学生にとって非常に尊敬できるものであり、自分の将来に向けて学ぶべき内容も多いと確信をした。

や学生よりも「何事にも自分が優れている」と錯覚しがちである。教員が生徒や学生の上に立ち「教える」ことが当然であると考えているからだろう。

先輩の言葉を踏まえて、改めて私は、授業展開の方法について考え始めた。いかにも知っている、経験しているようなふりをして机上の空論を語り、授業を行うのも一つの方法かも知れない。しかし、私自身の性格と教員としての信念から、その方法は決して許されるものではなかった。教員は生徒や学生に、嘘や間違ったことは絶対教えるてはならないと考えているからである。筆者に関する周辺知識を蓄えても、私自身が企業での勤務経験を有していても、工場で鉄を削った経験は全くなく、それを教えることはできない。「鉄を削る」に関しては、「学生に教える」ということはせず、共に作品を読み進めて、分からないところは素直に教えてもらいながら味わっていくことにしよう」と決心した。その後、予習ノートに、授業展開と必ず理解させたい部分を記入するうちに「教えられなかったらどうしよう」という不安は消えていた。

◆授業止日

数日後、「鉄を削る」の授業初日を迎えた。機械工学科での授業開始早々、導入部で、ある学生が「この本、知ってる」と話しかけてきた。「予習してきたん？」と尋ねると、「機械工学科の〇〇先生が、この本は読んだ方がいいって授業中に薦めてたから知ってる」図書館にも文庫本があった読んでることがある」と教えてくれた。「どんな内容やった？」と尋ねると、少し解説をしてくれたが、「せつかくこれから授業なんかやら話さん」という学生もいて、和やかな雰囲気德音読から進めていった。これまでの教材では、音読の途中で眠そうになる学生が、真剣な眼差しで教科書の文字を追っていた姿には驚きを隠せなかった。普段、自分たちが実習で行っていることが書かれており、共感しながら、すんなりと内容が頭に入っていたのだと思われる。

音読後、簡単に初発の感想を書いてもらい、数人の学生に発表をしてもらった。「旋盤工をしながら作家活動を行うのはすごい」「きれいなキリコが作れるようになりたい」「経験と勘から、親会社の人が発見でき

教員にも褒められるらしい。しかし、キリコの形が悪く失敗した時には「〇〇先生に『お前、センスねえなあ』って言われて怒られる」と笑いながら話してくれた。技術者を養成する高専らしい会話である。最後の「キリコの色や形の微妙な変化を見てとれないようでは、一人前の機械工とはいえない」と記されているところでは、「鉄を削る時の音やキリコの色や形の微妙な変化が分からんから、一人前じゃないなあ」と反省する学生もいた。

第三段落では、ある旋盤工が自分の経験から得た知識と勘で、伝票とテスト・ピースのキリコが異なっていることを指摘し、親会社の製造部長に感謝されるというエピソードがある。この場面でも学生の反応があり、「職人冥利に尽きる」「自分もこの旋盤工のような職人になりたい」と話していた。授業では、旋盤工がキリコの違いを指摘する時の気持ち、指摘を受けた時の営業担当の男の気持ち、そして親会社の製造部長の気持ちをそれぞれ学生に質問した。旋盤工や親会社の製造部長の気持ちを語る時の学生の表情は、とても自信に溢れ清々し

なかつた異材を発見できるのはすごい。自分もそんな技術者になりたい」という感想があった。その後、形式段落に沿って内容読解に入っていた。

第一段落は、「刃物の切れ味を聞いておきな、と言われたことがある」から本文が始まる。学生に「これってどういうこと？」と尋ねてみた。すると「バイトで金属を削る時に、いろんな条件で音が変わってくるってこと」と教えてくれた。「どうして音が変わるん？」と再度尋ねると、「金属の種類とかバイトの当て方、機械の動かし方でも変わる」という。高専の学生は、ほぼ毎日作業実習がある。機械工学科の学生も毎日作業服に着替え、暑い日も寒い日も実習工場で機械に向かって、鉄を削っている。ただ、見習工であった当時の筆者と同様、「切れ味を聞きわけれる」ことはまだできないと話していた。また、「旋盤工になるためには、腕も磨くが、耳も鍛えなければならぬ」という記述に反応した学生もいた。上手に鉄を削るには、耳も鍛えなければならぬ」ということが非常に意外で、技術者の卵として新たな気づきがあったようである。

いように見えた。どれも自分自身のことではないが、技術者の卵として、自分の知識や経験、技術が認められた時の喜びを自分のことのように感じていたのだろう。普段は教えてもらいう立場である学生が、教員である私に自分の知識や経験からキリコについて解説をし、「理解してもらえた」「先生に勉強していることが認められた」と感じ、少し誇らしげな表情をしていたことと相通じる部分がある。

◆おわりに

今回「鉄を削る」の授業では、私が理解困難であった専門用語の解説から始まり、実習で鉄を削る時の作業風景や本教材で描かれている情景を学生に教えてもらいながら、ともに作品を味わっていった。学生の授業での発言や表情を見ている限り、この授業方法は有効であり、本教材の単元のねらい（働くことに対する筆者の考えを読みとって自分の考えを作り上げる。読書の幅を広げ、社会や仕事、人生について考えるきっかけにする）や学習の目標（旋盤工たちの仕事に対する姿勢や思いを読み取る。

る。

第二段落では、金属屑の「キリコ」の描写がある。学生の反応が一番顕著であった段落である。私は、正直なところ、教科書のキリコの写真を見ても、なぜきれいな金属屑を作ることに意味があるのか全く理解できずにいた。そこで学生に「キリコってどういうものなん？ 教えて」と言った。数名の学生が次々に、うれしそうにキリコについて説明してくれた。普段は教えられる側である学生が、教員が知らない自分の知識や経験を語ることができるとあり、少し誇らしげに見えた。私が知らない分野の知識を生徒たちは豊富にもっていた。学生を見る眼が少し変わり、尊敬できたのは言うまでもない。また、筆者はキリコについて、「不用のものとして捨て去ってしまうものにすぎないのに、自分はいまそのキリコそのものを作っているのだという錯覚を持つ」と記している。機械工学科の学生も同じ気持ちになるよう、授業中に思わず「これ分かる」と口々に漏らしていた。捨てるものであるのに、色や切り口がきれいなキリコを見ると、とてもうれしくなり、指導

仕事上の技術や智恵、工夫などについて、調べて発表する）も十分達成できたと実感している。特に機械工学科の学生は、本教材の読解を通して、大きな自己肯定感を持つことができたと思われる。しかしこれは機械工学科の学生だけではなく、高等学校の普通科の生徒でも同様の効果が得られると考える。例えば、まず生徒には、専門用語の意味を調べさせ、他者が正確に理解できるような発表を促す。次に自分の保護者や祖父母などに「働くことの意味」「仕事に対する姿勢」「仕事でうれしかったこと」などをインタビューさせたり、関連書籍から筆者の仕事に対する思いを読み取って発表をさせ、クラスで意見交換をしたりしながら授業を進めることで、生徒主体で教材への理解を深めることができる。

以上のことから、本教材は、様々な背景を持つ生徒とともに、筆者や旋盤工たちの生き方や考え方を通して「生きている力」を学び、自分の糧にできる必読の文章であると

入部明子 著

パラレル・ライティング入門

12人の文豪に学ぶ文章力と社会人基礎力



A5判・並製・一四四ページ
定価 本体一八〇〇円十税

評者 大井 悟

「書くことが苦手だ」「何をどう書けばよいかわからない」…。そんな悩みをもつ学生や、指導法を模索する先生方のために、ユニークな本が誕生した。

「パラレル・ライティング」とは、アメリカの教育現場で行われている学習法で、名作のプロット（あらすじ）を、文章を書くときの構成に應用する、というもの。本書には、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治などの短編を、プロットに着目しながら読み、その「型」をまねて書く十二のレッスンを収録されている。

る。日本近代文学を代表する文豪たちの珠玉の掌編に触れるという点でも、学習価値が高い。また、本書の各レッスンには、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の十二の要素が割り振られている。近代文学の中から「主体性」「課題発見力」「傾聴力」など、今日の実社会でも求められる基本的な人間力を読み取ろうという試みだ。

そもそも、「まなぶ」と「まねぶ」は同語源。その学びの原点に立ち返ることを勧める本であるともいえるかもしれない。

横山悠太 著

唐詩和訓

ひらがなで読む名詩100



四六変形判・並製・二四〇ページ
定価 本体二四〇〇円十税

評者 川野直子

まず驚かされるのが、その独特のレイアウトだ。漢詩の白文の左側に七音・七音のひらがなの訳が整然と並ぶ。ひらがなの詩に大きな漢字のルビが付いているようにも見える。

「くにはくずれて やまかわのこり／はるのまちは きやくさばかり…」杜甫の「春望」の訳はこんな具合。井伏鱒二の『厄除け詩集』などと同工異曲じやないか、と言うなかれ。本書がユニークなのは、意味の切れ目を重視する点だ。すなわち、五言詩は二字・三字、七言詩は

四字・三字のまとまりごとに訳す。「春望」なら「国破 山河在 / 城春 草木深…」である。著者は「吾輩ハ猫ニナル」が芥川賞候補になった横山悠太氏、十年間の中国滞在歴のある氏が、長年愛読してきた唐詩から、杜甫・李白・白居易・韓愈の一〇〇首を選び和訓と鑑賞文を付けた。下に添えられた書き下し文と比べながら読むもよし、鑑賞文を読んでから再読するもよし、そして最後に、自分で和訓を試みるもよし…、一冊で何通りも楽しめる詩集である。

親や家族が介護サービスを受けている人は多いと思う。スタッフのことばづかいが気になることはないだろうか。本書は、利用者と家族へのアンケートやインタビューを紹介しながら、介護現場の望ましいコミュニケーションのあり方を考える。タマ口で話さないでほしい。専門語や略語の意味がわからない。幼児に話しかけるような言い方は失礼。いちいち納得させられるが、本書はもう一歩先へ行く。たとえば食事介助で「ごくんしましたか」は言うべき

遠藤織枝 / 三枝令子 / 神村初美 著

介護のことばづかい

利用者の思いにこたえる



四六判・並製・一四四ページ
定価 本体一四〇〇円十税

評者 山本 敦

ではないが、「はい、ごくん（してください）」のような言い方を問題視してはいけない、という。認知症のある人には、誤嚥を防ぐためにこうした「動作を促すオノマトペ」が有効だからだ。ほかにも「拍手／握手」の聞き分けが難しい高齢者には「手をたたく／握る」なら伝わる等、ことばの研究者ならではの含著に富んだ提案が随所にある。

介護する人向けの本だが、それが読んでも心に残る記述があるはず。どんな形であれ、いずれ他人事ではなくなるのだ。

木之内誠 / 平石淑子 / 大久保明男 / 橋本雄一 著

大連・旅順歴史ガイドマップ



A5判・上製・二〇八ページ
定価 本体三〇〇〇円十税

評者 荒木 信

本書は、大連・旅順の街並みの変遷を現在の地図上に再現し、歴史的建造物や史跡についての解説を加えたものである。大連・旅順は、日露戦争後多くの日本人が移り住んだ、日本となじみ深い土地である。文学者ゆかりの地としても知られ、「てふてふ」の安西冬衛、「アカシヤの大連」（国語科では「ミロのヴィーナス」か）の清岡卓行などもこの地で暮らした。また漱石も訪れ、紀行文をまとめている。もちろん本書にも、このような文学者の生家の場所、解

説などが掲載されており、さらに漱石の歩いた道のりを示すコラムなどもまとめられている。地図を眺め、都市の歴史に思いを馳せれば、時間を超えた旅へと赴くことができるだろう。なお、本書は好評を博した『上海歴史ガイドマップ』（増補改訂版、二〇一〇）の姉妹編でもある。前書は、松浦寿輝、上田早夕里、山口恵以子など、人気作家の作品作りの参考ともされた。豊かなイメージを喚起する本書は、今回も、あらたな文学作品を生み出す土壌となるかもしれない。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

📖 教育行政関係

- 2019年度実施の全国学力・学習状況調査(中3対象)で英語を導入(12/14)
- 文科省、不正入試緊急調査の最終まとめ公表。医学部関係81大学のうち、10校に不適切な事案(12/14)
- 文科省、「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」公表。使用は原則、授業時数の半分未満(12/27)
- 教育再生実行会議、高校改革に向けた検討の中間報告公表。普通科の見直しなどが論点(1/18)
- 平成31年度大学入試センター試験実施(1/19, 20)
- 中教審の教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について」公表(1/21)
- 学校における働き方改革答申(1/25)

🕒 時事

- 新元号は4月1日公表(1/4)
- 日本文藝家協会が「高校・大学接続『国語』改革についての声明」を公表(1/24)
- 橋本治死去。70歳(1/29)
- 中国・曹操の墓から最古の白磁と目されるつぼが出土(2/20)
- ドナルド・キーン死去。96歳(2/24)

📅 新元号は4月1日公表

新元号は4月1日に公表し、5月1日に改元されることになった。

4月1日に、政府が有識者による「元号に関する懇談会」などに原案を示し、新元号を定める政令を閣議決定して発表、天皇陛下が署名して公布するという流れ。

元号案には中国古典に加え、日本の古典も典拠としてあげられているという。

今上陛下は4月30日に退位され、5月1日午前0時に改元、皇太子殿下が新天皇に即位される。

📖 平成31年度大学入試センター試験実施

2019年1月19・20日の二日間、大学入試センター試験が実施された。

志願者は57万6830人で、昨年より5841人減。

志願者の割合を見ると、この3月に高校等を卒業予定の現役生は全体の80・6%で46万4950人(前年より8620人減)。センター試験を入試に使う国公私立大は703校で過去最多。公私立短大は149校。実際の受験者は54万6198人(追・再

試験(各)で、前年より8014人減。受験率は94・69%だった。

国語の平均点は121・55点(200点満点。前年より16・87点上昇)、得点調整は行われなかった。

(https://www.dnc.ac.jp/center/shiken_jouhou/h31.html)

📌 日本文藝家協会が「高校・大学接続『国語』改革についての声明」を公表

公益社団法人日本文藝家協会(理事長・出久根達郎)が、1月24日、「高校・大学接続『国語』改革についての声明」を公表。文芸作品の扱いが少なくなることを憂慮。

(<http://www.bungeikai.or.jp/pdf/20190124.pdf>)

📖 学校における働き方改革答申

中央教育審議会は1月25日、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」とする答申を公表した。

答申では「一年単位の変形労働時間制」

📖 研究会・展覧会など

漢字展—4000年の旅

[日時] 2019年6月28日—9月23日

[場所] 東洋文庫ミュージアム

[問合せ] http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/museum_index.php

[問合せ] <http://www.gakkai.ac/JSU/>

全国大学国語教育学会 第136回茨城大会

[日時] 2019年6月1日(土)・2日(日)

[場所] 茨城大学 水戸キャンパス

[問合せ] <http://www.gakkai.ac/JSU/>

全国漢文教育学会 第35回大会

[日時] 2019年6月15日(土)・16日(日)

[場所] 京都教育大学ほか

[問合せ] <http://www.zenkankyo.gr.jp/>

特別展 三国志

[日時] 2019年7月6日—9月16日(東博)

年間360時間」とした。

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shing/chukyoo/chukyoo3/079/sonota/1412985.htm)

10月1日—2020年1月5日(九博)

[場所] 東京国立博物館 九州国立博物館

[問合せ] <https://sangokushin2019.exhib.jp/>

第63回日本読書学会大会

[日時] 2019年7月28日(日)

[場所] 林野会館(フナサ・フォレスト)

[問合せ] <https://www.readingassoc.site/event>

第82回国語教育全国大会

[日時] 2019年8月17日(土)・18日(日)

[問合せ] <http://nikokug.org/index.html>

全国大学国語教育学会第137回仙台大会

[日時] 2019年10月26日(土)・27日(日)

[場所] 宮城教育大学 青葉山キャンパス

[問合せ] <http://www.gakkai.ac/JSU/>

「最後のジェダイ」。年老いたルークが前作最終盤に続き登場するエピソード8は、我々幼少期からのスターウォーズファンにとって何とも感慨深いものとなりました。89年1月。父アナキン（ダースベイダー）に追い詰められたルークの如く崖っぷちだった高3の私は、ラジオの深夜放送を相棒に「最後の共通一次」に臨むべく宿敵古典、英語と苦闘。昭和から平成へと、時代が大きく転換する時でした。あれから30年。平成最後の高3の皆さんは「最後のセンター試験」と対峙すべき時を迎えようとしています。「共通一次最後の世代」から「センター最後の世代」へ。

フオースと共に在らんことを。

大阪支店 北川茂



昨年末、満を持して大漢和辞典デジタル版が刊行されました。以来ご案内のために、これまでおつきあいのなかった学校司書の先生とお話しする機会が増えましたが、その仕事量を知って驚きました。レファレンスや選書、カウンター業務に図書便りの作成など。「地味な仕事ですが毎日忙しいのですよ」と謙遜されています。道徳の教科化が決まった際には、図書館の利用が増えるのではと期待したのですが、「先生方には、図書館を一つの教材として考えて欲しいのです」。これはある学校司書の先生の言葉です。今、求められている解答のない学び。社会に出てから役に立つ力を育む場として、図書館が活躍することを願っています。

東京支店 細沼諭



A Iブームの昨今ですが、近頃はB I (Basic Income) もよく話題になります。A Iが人間の雇用を代替するのに伴い、政府がすべての人に最低限の所得を保障する制度のこと。生来怠け者の私は、B Iの導入を心から待ち望んでいるのですが、それはさておき。▼A、Bとくれば当然のように、最近ではC Iという言葉も聞こえてくるようになりました。ただしこちらは、人によっていろいろな意味で使われ、今のところ統一見解はないようです。A IとB Iによって労働から解放された人間が次に直面するC Iとは何か？ 国語教育的に考えると、Communication Culture, Classic...あたりもキーワードになりそうですが、ここはやはり、それらを包含するCurriculum Innovation (教育課程の革新)でどうでしょう。▼本号では、そんなC Iの象徴的領域である「話す・聞く」を特集しました。新しいクラスでの対話が始まる新学期。これからは、「話す・聞く」を総動員した活発な話し合い、いや、「はなC I」の時代です。…失礼しました。(祐)

【投稿規定】

国語教育や国語の授業に関する具体的な提案、実践記録、教材研究など、投稿を募集しています。四〇〇字×六〜二枚(二九字×二六一行)程度。(紙幅等の都合により掲載できないこともあります。ご了承ください)。

国語教室 第110号
2019年4月15日発行

国語教室編集室
鈴木一行
広研印刷株式会社
株式会社大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>